

内容解説資料



特設ウェブサイト
もご覧ください

地総046-901『高等学校 新地理総合』

「教科書発行者行動規範」に則った資料です

文部科学省検定済教科書
46 帝国
地総046-901
高等学校地理歴史科用

高等学校 新地理総合

帝国書院



今がわかる! 課題に向き合う! 地理の力が身につく!

地理総合教科書の決定版

高等学校 新地理総合

令和8(2026)年度発刊
地総046-901
AB判 240ページ

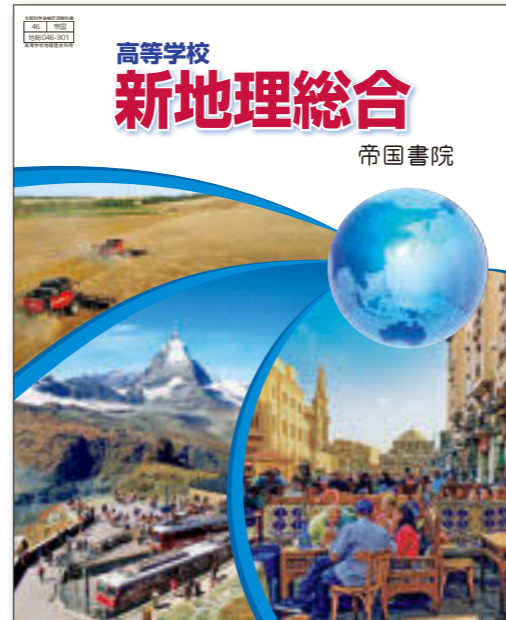
本資料のもくじ

今がわかる!課題に向き合う!
地理の力が身につく!
地理総合教科書の決定版



令和4(2022)年度以降版

大刷新!



令和8(2026)年度以降版

『高等学校 新地理総合』に込めた想い

地理的な諸課題に対し、主体的に学べる教科書を目指して

著作者代表 近畿大学 教授 戸井田克己
帝国書院 編集部

私たちの暮らす世界は今、地球環境問題や人口問題、頻発する自然災害など、多くの課題に直面すると同時に、テクノロジーの進歩やグローバル化の進展によって、急速に変化しています。このような時代において、地理を学ぶことは、異文化を理解し、多様な価値観を尊重する力を育むとともに、世界の動向を的確にとらえ、地域や地球規模の課題の解決策を見いだす力を養うために欠かせません。また、自然災害のリスクを認識し、防災・減災に向けた適切な行動をとる力を身につけることにもつながります。

私たち執筆陣は、高校生にこのような「地理を学ぶ意義」を実感してほしいと考えています。そこで本書は、2部1章の「生活文化」単元にまとめたページ数を割くとともに、系統地理と各地の地域事例を幅広く掲載し、世界の今を多面的・多角的かつ総合的にとらえられるようにしました。また、特設ページ「アクティブ」を新設し、地理的な諸課題に主体的に取り組めるようにしました。さらに、全編に置かれた豊富な資料とその読み解きを通じて、地理的な見方・考え方や技能が自然と身につくよう工夫しました。

この教科書で学ぶことにより、生徒たちにはグローバル化する予測困難な国際社会を主体的に生きるために必要な資質・能力をつかひ、未来を切りひらいていってほしいと願っています。

全体構成 4

見開き構成 6

特色

①

系統地理と地域事例で構成した「生活文化」

- 充実した系統地理により、基礎学習から大学入試まで対応 10
- 地域事例は、主題を軸に掘り下げる展開に改善 12
- 臨場感ある写真と因果関係がわかる本文記述 14
- 授業展開例 16

特色

②

課題解決に向けての学びができる「地球的課題」

- 地理的な課題の解決に向けて探究できる「アクティブ」 18
- 地球的課題の各項目に日本の事例を新設 20
- 授業展開例 22

特色

③

みずから考え行動につながる「防災」

- 災害発生メカニズムがとらえやすい模式図と解説 24
- 地図を活用して、災害リスクと防災を考察する「アクティブ」 26
- 新しい知見や最新情勢を反映 28
- 授業展開例 30

特色

④

実践的な地理的スキルが身につく「地図とGIS」

- 地図やGISの活用方法を段階的に学べる展開 32
- 授業展開例 34

QRコンテンツ 36

関連教材 38

特色一覧・著作関係者 40

全体構成

見開き構成

特色①

特色②

特色③

特色④

QRコンテンツ

関連教材

- 「生活文化」単元において、地形や気候など地理学習の基礎となる**系統地理的な学習項目**や、世界各地の現在の生活文化が学べる**地域事例**を引き続き充実させています。
- 「地球的課題」単元や「防災」単元でも複数の具体事例を比較しながら、課題の解決策を多角的に考察できるようにしました。

- 令和4年度版教科書から全体のページ数を増減することなく、**地理的な課題の解決に向けて探究できる特設「アクティブ」**を全7テーマ(14ページ)新設しました。(→本資料p.18-19、26-27、32-33)
- 選択的に扱うことができる「アクティブ」や「選択事例」により、**授業時間数に応じた進度調整がしやすくなるように改善**しました。

▼巻頭3-p.1

もくじ

1部1章
地図やGISの基本的な使い方から、GISを利用した地域分析まで段階的に学べるようにしています。

1部2章
現代世界の結びつきを多様な地図から考察できるようにしています。

2部1章
世界各地の生活文化の特色を学ぶことで、国際理解を育めるようにしています。

系統地理的な学習項目の**概論**の後に、選択した地域について主題を軸にして追究できる**選択事例**を設置しています。

地理を学ぶ5つの視点……巻頭 1
地理を学ぶということ……巻頭 4

1部 地図でとらえる現代世界

1章 地図と地理情報システム 5

1節 地球上の位置と時差……6
1 地球上の位置と私たちの生活……6
2 時差と私たちの生活……8
SKILL 1 時差の計算……9

2節 地図の役割と種類……10
1 地球儀と地図……10
2 身の回りの地図……12
SKILL 2 地形図の利用—地図記号……14
SKILL 3 地形図の利用—縮尺と等高線……15
3 統計地図の種類と利用……16
SKILL 4 等値線図のつくり方……18
SKILL 5 階級区分図のつくり方……19
4 地理情報システム(GIS)の利用……20
SKILL 6 地理院地図の利用……22
アクティブ テーマパークをどこにつくる?……24
SKILL 7 身近な WebGIS の利用……26

2章 結びつきを深める現代世界 27

1節 現代世界の国家と領域……28
1 現代世界の国家……28
2 日本の位置と領域……30

2節 グローバル化する世界……32
1 国家間の結びつき……32
2 貿易によって結びつく世界……34
3 さまざまな交通網の発達……36
4 世界を結び通信用の発達……38
5 観光のグローバル化……40
コラム グローバル化と感染症の拡大……42

2部 国際理解と国際協力

1章 生活文化の多様性と国際理解 43

序説 生活文化の多様性……44
1 生活文化を考察する方法……44

1節 世界の地形と人々の生活……46
1 生活の舞台となる地形……46
2 大地形と人々の生活……48
3 河川がつくる地形と人々の生活……50
4 海岸の地形と人々の生活……52
5 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活……54
SKILL 8 地形図の利用—小地形と土地利用……56

SKILL 9 空中写真の利用……57

2節 世界の気候と人々の生活……58
1 気温・降水量と人々の生活……58
2 大気循環と人々の生活……60
3 世界の植生と気候分布……62
SKILL 10 雨温図・ハイサーグラフの見方……64
SKILL 11 写真の読み取り方—気候……65
4 熱帯の生活……66
5 乾燥帯の生活……68
6 温帯の生活……70
7 亜寒帯・寒帯の生活……72
SKILL 12 写真の読み取り方—生活文化……74

選択事例 自然①
モンスーンの影響を受ける地域での生活—東南アジア……76
1 モンスーンの影響と人々の生活……76
2 気候を生かした農業と人々の生活……78

選択事例 自然②
多様な自然環境から影響を受ける人々の生活—オセアニア……80
1 多様な自然環境に育まれた生活文化……80
2 自然環境を生かした農業と生活……82

3節 世界の言語・宗教と人々の生活……84
1 世界の言語と人々の生活文化……84
2 世界の宗教と人々の生活文化……86

選択事例 宗教①
イスラムと人々の生活—中央アジア・西アジア・北アフリカ……88
1 イスラムを中心とした生活文化……88
2 変化するムスリムの生活……90

選択事例 宗教②
ヒンドゥー教と人々の生活—インド……92
1 ヒンドゥー教と共にある生活……92
2 変化するヒンドゥー教徒の生活……94

4節 歴史的背景と人々の生活……96
1 歴史的背景が人々の生活に与える影響……96

選択事例 歴史①
結びつきの歴史と人々の生活—ラテンアメリカ……98
1 ヨーロッパ社会の影響が強い文化……98
2 外国資本による工業化と生活の変化……100

選択事例 歴史②
植民地支配の歴史と人々の生活—サハラ以南アフリカ……102
1 生活文化や産業に残る旧宗主国の影響……102
2 急速に変化する環境と人々の生活……104

選択事例 歴史③
国家体制の変化と人々の生活—ロシア……106
1 国家体制の変化と人々の生活……106
2 変化するロシアの生活と産業……108

5節 世界の産業と人々の生活……110
1 人々の生活を支える農業の発展……110
2 人々の生活を支える工業の発展……112
3 産業のグローバル化と人々の生活……114

巻頭3

SKILL 地理の学習で必要となる基礎的な技能が身につくようにしています。

選択事例 産業①
人々の生活を支える産業とグローバルな結びつき—アメリカ合衆国……116
1 食を支える農業とグローバルな結びつき……116
2 生活を便利にする産業の発展……118
3 産業の発展を支えてきた移民の力……120

選択事例 産業②
経済成長による人々の生活の変化—東アジア……122
1 東アジアの経済成長とその歩み……122
2 経済成長による中国の生活の変化……124
3 経済成長による韓国の生活の変化……126

選択事例 産業③
環境に配慮した産業と人々の生活—ヨーロッパ……128
1 伝統と環境を大切に生活……128
2 多様な食文化と環境への配慮で変わる農業……130
3 環境に配慮した工業と生活……132
SKILL 13 地図によるまとめ方……134

2章 地球的課題と国際協力 135

序説 地球的課題と持続可能な社会……136
1 相互かつ複雑に関連し合う地球的課題……136

1節 地球環境問題……138
1 多様な地球環境問題……138
2 熱帯林の破壊への対策……140
3 地球温暖化への対策……142
持続可能な社会に向けて プラスチックごみによる海洋汚染について考えよう……145
アクティブ 二酸化炭素をどう削減する?……146

2節 資源・エネルギー問題……148
1 世界のエネルギー・鉱産資源……148
2 エネルギー利用の現状と課題……150
3 地域で異なるエネルギー問題……152
持続可能な社会に向けて 水資源をめぐる問題について考えよう……155
アクティブ 日本にとって最適な電源構成は?……156

3節 人口問題……158
1 世界の人口……158
2 発展途上国の人口問題……160
3 先進国の人口問題……162
持続可能な社会に向けて 教育とジェンダーの格差について考えよう……165

4節 食料問題……166
1 飢餓と飽食……166
2 地域で異なる食料問題への取り組み……168
アクティブ 慢性的な飢餓をなくすには?……170

5節 都市・居住問題……172
1 世界の都市の発達……172
2 発展途上国の都市・居住問題……174
3 先進国の都市・居住問題……176

6節 地球的課題の解決に向けて……178
1 課題解決に向けた取り組み……178
アクティブ 地球的課題をどう解決する?……180
持続可能な社会に向けて ロシアによるウクライナ侵襲の影響について考えよう……182

選択事例

3部 持続可能な地域づくりと私たち

1章 自然環境と防災 183

序説 人々の生活と自然災害……184
1 多様な自然環境と共生する社会を目指して……184

1節 日本の自然環境……186
1 日本の地形……186
2 日本の気候……188

2節 地震・津波と防災……190
1 地震・津波による災害……190
2 地震・津波の被災地の取り組み……192
コラム 地震や津波が発生するしくみ……194
SKILL 14 ハザードマップの見方……195

3節 火山災害と防災……196
1 火山の恵みと災害……196
2 火山と共生する地域の取り組み……198
コラム 噴火のしくみとカルデラの形成……200
SKILL 15 火山地形の読み取り方……201

4節 気象災害と防災……202
1 さまざまな気象災害……202
2 気象災害への各地の取り組み……204
コラム 台風や線状降水帯が発生するしくみ……206
SKILL 16 水害と地形の関わり方の読み取り方……207
アクティブ 自然災害に強い土地利用は?……208

5節 自然災害への備えと復旧・復興……210
1 災害発生前の防災・減災に向けた取り組み……210
2 災害発生時の対応とその後の復旧・復興……212
アクティブ 災害発生!どちらを選ぶ?……214
SKILL 17 マイ・タイムラインの作成……216

2章 生活圏の調査と地域の展望 217

1節 生活圏の調査と地域の展望……218
1 地理的な課題と地域調査……218
2 現地調査の準備……220
SKILL 18 GISを利用した地域課題の発見……222
3 現地調査の実施……224
SKILL 19 年代が異なる地形図の読み取り方……225
4 調査の分析と発表……226
SKILL 20 ポスターセッションの方法……227

さくいん……228
世界の家畜・鉱産物・農産物……巻末 1

2部2章
地球的課題について、複数の具体事例を比較しながら考察できるようにしています。

3部1章
防災について、災害発生のメカニズムから対策まで学べるようにしています。

3部2章
地域調査の手法を丁寧に学べるようにしています。

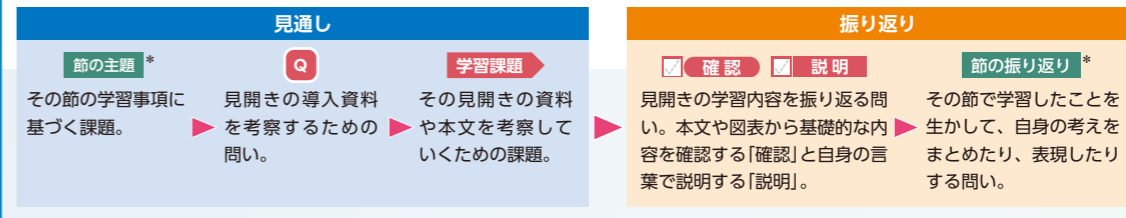
アクティブ 社会のさまざまな課題に向き合い、解決に向けて協働的に取り組めるようにしています。

学びやすく、理解が深

- 判型をワイドなAB判として、写真や地図、グラフ、コラムなど豊富な資料を効果的に配置することで、視覚的に理解しやすい見開きにしています。
- 原則1見開き1時限を想定して構成しているため、授業の進度調整がしやすくなっています。
- 本文は因果関係や背景がわかるよう丁寧に記述しています。(⇒本資料p.14-15)

まる見開き構成

学習の見通し・振り返り



▶ p.46-47

1節 世界の地形と人々の生活

見通し・振り返りシート

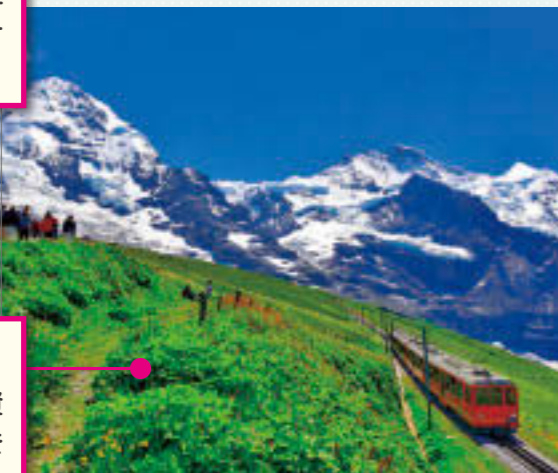


節の主題

節の見通しを立てる問いを設けています。

節の主題

地球上には、高く険しい山脈や広大な平原、深い谷などの多様な地形がある。人々はこうした地形とどのように関わっているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。



↑1 高く険しいアルプス山脈を走る鉄道(スイス、2015年8月)
標高4000m以上の山々が連なるアルプス山脈には、美しい景観を求めて多くの人が訪れる。



↑2 大平原を走る鉄道(オーストラリア、9月)

写真1と写真2の地形に違いがみられるのはなぜだろうか。

Q

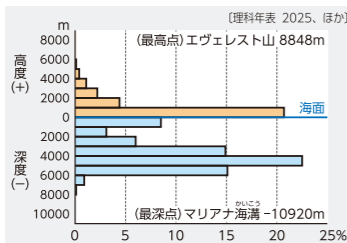
迫力ある導入資料とその資料を考察するための問いを設けています。

学習課題

見開きの見通しを立てる問いを設けています。

1 生活の舞台となる地形

学習課題 多様な地形は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。



↑3 地球表面の高度分布

人々の生活と深く関わる地形 人々の生活は、土地の高低や起伏といった地形と関わり合いながら成立しており、それは、鉄道がさまざまな地形に対応して敷設されていることからわかる(写真1・2)。

私たちの生活の舞台になっている陸地は、地球表面の3割を占めており、残りの7割は海である。陸地の大部分は高度1000m以下であり(図3)、世界の人々のほとんどがそこに暮らしている。広大な平原は一般に大陸の内陸部に広がっており、巨大な山脈は大陸の縁辺部に分布する傾向がある。起伏の小さな平原は、開発する際に地形的な制約が少ないため、大都市や農業地帯の多くが平原に立地している。

地形をつくる力 地球上の地形は、地球内部からの力である内営力と、太陽エネルギーを源にした外営力という二つの力が作用してつくられる。内営力は地殻変動や地震、火山活動によって地形を変化させる力であり、長い地質時代(表6)を通して大陸や大平原、巨大な山脈など、広範囲に及ぶ大地形をつくってきた。

地殻変動

側注に用語解説を設け、本文を理解しやすくしています。

*側注の用語解説は、すべてQRコンテンツにも収録しています。

46 中学校との関連 変動帯 プレート

中学校との関連

見開きの重要語句のうち、中学校の地理で学習している語句を示しています。

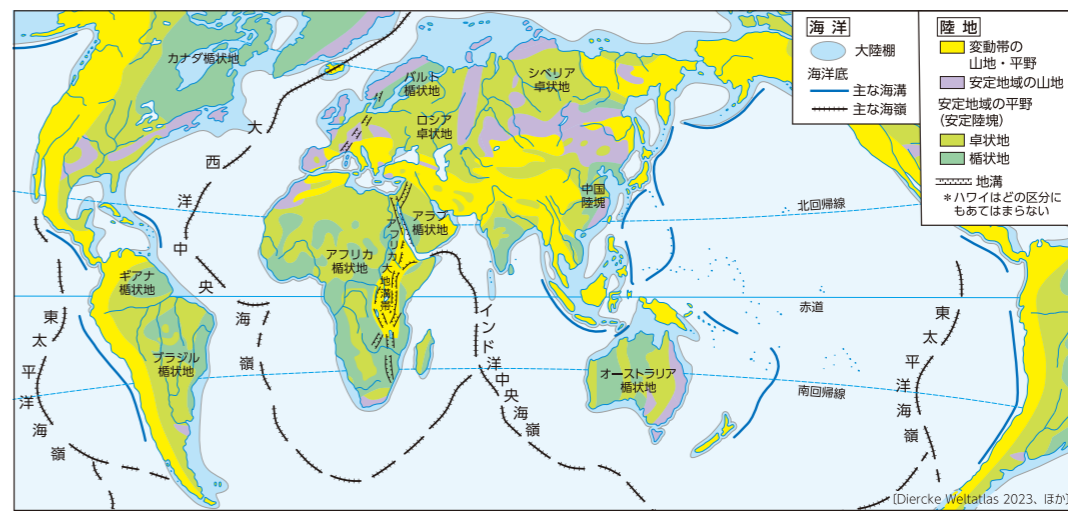
地図帳活用 世界の地形を表した地図で、巨大な山脈や海溝、海嶺の位置や分布を調べよう。

地図帳活用

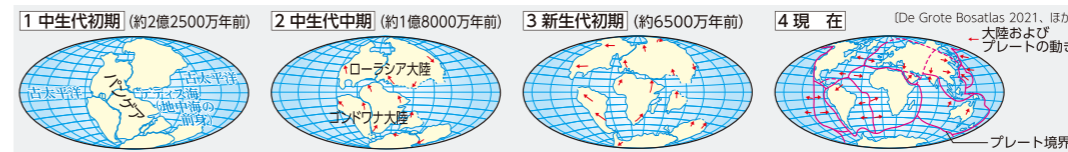
地図帳を効果的に活用するためのコーナーを設けています。

説明

「学習課題」に関連した内容を、自身の言葉で説明する振り返りの問いを設けています。



↑4 変動帯と安定地域



↑5 大陸の移動と現在の大陸の分布 かつて存在した巨大大陸パンゲアが、分裂・移動して現在の大陸の分布に至ったと考えられている。
読み解き 現在の大陸は、それぞれどのように移動してきたのだろうか。

外的営力は、気温の変化や雨、風、氷河、河川などの作用によって地形を変化させる力であり、気候地域ごとに多様である。外的営力は狭い範囲に作用して、比較的規模の小さな小地形をつくる。

変動帯と安定地域 世界の大地形は、地震活動や地殻変動が活発で、巨大な山脈や活断層、火山などが分布する変動帯と、それ以外の地震・火山活動が不活発な安定地域で特徴が大きく異なる(図4)。

地球の表面は厚さ100km程度の固い岩石でできたプレートに覆われている。変動帯はプレート境界に沿って広がり、プレートの運動と密接に関連している。プレートは十数枚に分かれており、それぞれが海面を覆いつくした流水のようにゆっくりと滑り動いている(図5)。地殻変動や地震・火山活動と、それらによる大地形の発達、プレートの動きが原因で生じると考えられている。このようにさまざまな地学現象の原因をプレートの運動に求める考えをプレートテクトニクスとよぶ。変動帯と安定地域では、地形的な特徴や地震・火山活動に違いがあるため、それぞれの場所に暮らしている人々の生活にも違いがみられる。

(International Commission on Stratigraphy資料)

地質時代	年代	事項
先カンブリア時代	46億年前	微生物の誕生
	5億年前	酸素濃度上昇と鉄鉱床の形成
古生代	3900万年前	陸上動物の出現
	2億5200万年前	石炭層の形成
中生代	6600万年前	恐竜の時代
	6600万年前	ほ乳類の多様化
新生代	2300万年前	大陸氷河の出現
	260万年前	人類の誕生
第四紀	260万年前	氷河時代の人類の進化と拡散

↑6 地質時代の区分

確認 巨大な山脈や海溝、海嶺などの大地形が、どのような力で形成されたのか確認しよう。

説明 土地の起伏が人々の生活に与える影響について、身近な地域の例を挙げて説明しよう。

確認

本文や図表から基礎的な内容を確認する振り返りの問いを設けています。

(図5)

本文内に図番号を表記し、資料活用を促しています。

地理的な見方・考え方を働か

導入資料を考察するための問い「Q」

- 各見開きに導入資料とその資料を考察するための問い「Q」を新設しました。生徒の興味・関心を引き出しやすい資料や問いになるよう工夫しています。

NEW

POINT 1

導入資料の「Q」は、「なぜだろう?」という疑問をもたせることで、生徒が主体的に学習に取り組めることを目的としています。また、「Q」の問いは、地理的な見方・考え方を働かせられるようにしています。

▼ p.80



Q オーストラリアの人口が、東部や南西部に集中しているのはなぜだろうか。

←1 沿岸部に広がる都市 (オーストラリア、シドニー)



↑2 オーストラリアの人口密度



↑3 内陸に広がる平原を走る観光列車「ザ・ガン号」 (オーストラリア、アリススプリングス近郊)

多様な気候と人々の生活 オセアニアは、オーストラリア大陸とニュージーランド、太平洋の島々からなる広大な地域である(図4)。温帯から乾燥帯、熱帯まで存在する多様な気候が(図5)、人々の生活文化や産業を育ててきた。

オーストラリアは国土の大半が乾燥帯にあり、人口や経済活動は、面積としては限られた、比較的降水量の多い沿岸部の温帯地域に集まっている。特にシドニーやメルボルンといった東部沿岸の都市(写真1、図2)は、18世紀にイギリス人が入植する拠点となり、今なお人口の大半が集中している。イギリス人は19世紀半ばから農地や金鉱を求めて内陸へと開拓を進めていったが、内陸部は砂漠が広がる厳しい自然環境下にあるため(写真3、図5)、現在でも人の居住がごくわずかな地域が多い。ニュージーランドは偏西風の影響を強く受け、国土のほとんどが西岸

POINT 2

「Q」に対する答えは、その授業時間、その見開きのなかで導き出せるようにしています。ここでは、沿岸部と内陸部の気候の違いや、イギリス人の入植の歴史から「Q」の問いに回答できます。

せるよう改良した「Q」、「地図帳活用」

地図帳活用

- 授業や自学自習の際に使いやすい「地図帳活用」を56か所見開きの右下に設置しています。
- 一般図、鳥瞰図、主題図、統計資料など豊富な資料が掲載されている地図帳との連携を図ることで、位置や分布、他地域との結びつきなどを地図上でとらえ、深い学びにつながるようにしています。

地図帳活用 ヨーロッパの鳥瞰図で、アルプス山脈を境にどのように地形が異なるのか調べよう。 ◀ p.129

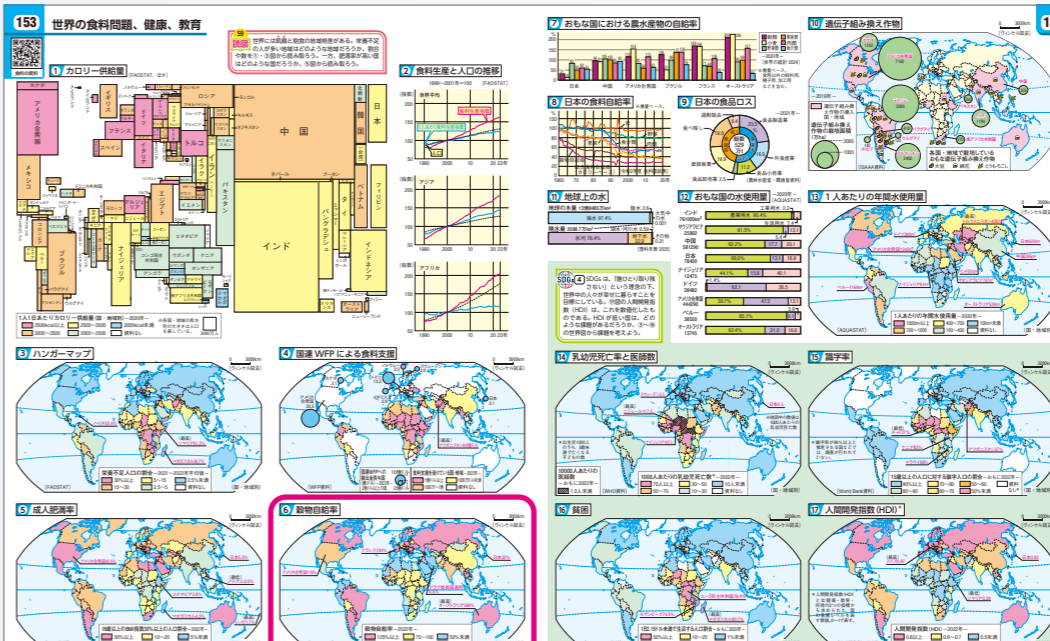


◀ 新詳高等地図 p.51-52

POINT 3

鳥瞰図で地形の起伏や地域の特徴的なイラストを確認することで、自然環境や生活文化など地域の特色を大観することができます。

地図帳活用 食料の主題図で、各国の穀物自給率や小麦の移動を確認しよう。 ◀ p.167



◀ 新詳高等地図 p.153-154

POINT 4

主題図から各国の穀物自給率の傾向を読み取ることができます。さらに、同縮尺で示されたほかの主題図と比較することで、分布の特徴や事象間の関連性を考察できます。

系統地理と地域事例で構成した

▶ 充実した系統地理により、基礎学習から大学

「生活文化」

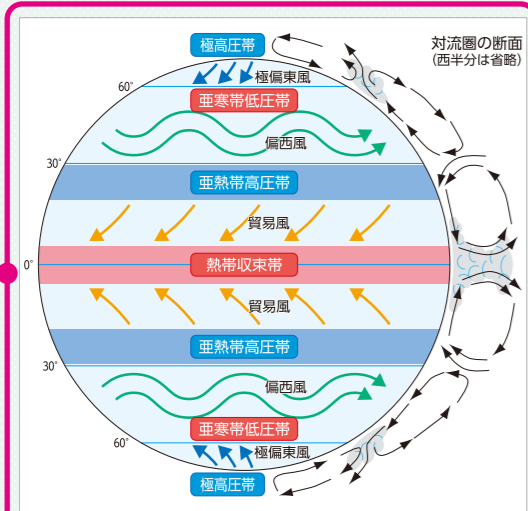
入試まで対応

- 地形や気候、言語・宗教、歴史的背景、産業といった系統地理的な学習項目が充実しており、地理学習の基礎となる知識を着実に習得することができます。
- 豊富な資料の読み取りを通して、地理的な見方・考え方を働かせられるようにしています。

POINT 1

大気大循環を示す図1や、風が吹くしくみを示す図4のように、模式図を掲載しています。また、大気大循環については、動画を新しく用意し、気候のメカニズムが視覚的に理解できるようにしました。

▼ p.60-61



↑1 大気大循環の模式図
↑2 偏西風から動力を得る風車(オランダ) 北緯50度付近に位置するオランダでは、風車は西を向いている。
↑3 風を利用して進む帆船(ケニア) アラビア海やインド洋では、古くから季節風を利用した航海が行われてきた。

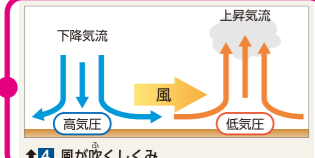
2 大気大循環と人々の生活

学習課題 風は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。

大気大循環の動画コンテンツ

コラム 風が吹くしくみ

大気が暖められたり冷やされたりすると、大気の温度や密度が変化する。冷たく重い空気は下降気流を、暖かく軽い空気は上昇気流を引き起こす。周囲より空気の密度が高い場所は高気圧(高圧帯)、低い場所は低気圧(低圧帯)となり、気圧差が生じる。地表付近では高気圧から低気圧に向かって風が吹き、気圧差の大きいときに風が強まる。



↑4 風が吹くしくみ

大気大循環と恒常風 地球規模での大気の流れである大気大循環(図1)があることで、低緯度から高緯度へと熱が輸送され、地球全体の気温差は小さくなる。

多くの太陽エネルギーを受ける赤道付近では、熱帯収束帯(赤道低圧帯)ができ、緯度30度付近の亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)から東寄りの貿易風が吹く。緯度60度付近には亜寒帯低圧帯(高緯度低圧帯)ができ、極高圧帯から東寄りの極偏東風が吹く。亜熱帯高圧帯と亜寒帯低圧帯の間では、西から東へ偏西風が吹き、この偏西風によって、低緯度から高緯度へ暖かい大気が運ばれる。偏西風や貿易風のように、一年中ほぼ同じ方向に吹く風を恒常風とよび、人々の生活に利用されてきた(写真2)。

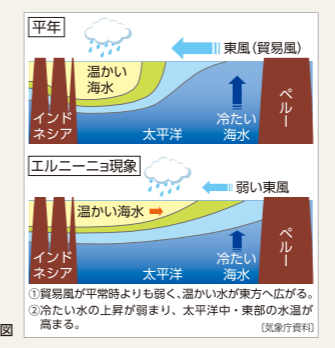
降水量の地域差と季節変化 降水量は上昇気流が発生しやすい低圧帯で多くなる。特に大気中の水蒸気量が多い熱帯収束帯では降水量が多い。一方、下降気流が発生しやすい亜熱帯高圧帯や極高圧帯では降水量が少ない。気圧帯は季節によって南北に移動するため、そ

POINT 2

大学入試でも出題されやすいエルニーニョ現象といった発展的な内容をコラムで取り上げることで、大学入試や地理探究を見据えた学習ができるようにしています。

コラム 貿易風の影響で発生するエルニーニョ現象

太平洋の熱帯地域は、平常時は東風である貿易風の影響で、ペルー沖などの太平洋東部の海水は冷たく、インドネシア沖などの太平洋西部の海水は温かい。ところが風の力が弱くなると、温かい海水が太平洋東部に広がり、それが数か月から1年程度続く場合がある。これをエルニーニョ現象とよぶ。エルニーニョ現象が起こると各地で異常気象が発生する。異常気象は、干ばつによる農作物の不作や、大雨による洪水などの災害の原因になる。遠く離れた日本でも、梅雨の期間が長引いて夏に気温が上がらず、野菜や米がうまく育たなくなることや、逆に冬に気温が下がらず、スキー場などが雪不足に悩まされることがある。一方、太平洋東部で海面水温が低くなる現象はラニーニャ現象とよばれ、ラニーニャ現象が発生すると日本では夏がより暑く、冬がより寒くなる。



→5 エルニーニョ現象の模式図



↑6 雨季のサバナ(ケニア、アンボセリ国立公園、2020年3月)



↑7 乾季のサバナ(ケニア、アンボセリ国立公園、2018年8月)

読み解き 雨季(写真6)と乾季(写真7)でどのような景観の違いがみられるのだろうか。

の影響を受ける地域では雨季や乾季が生じる(写真6・7)。1年を通して低圧帯の下にある地域では年中安定した降水があり、1年を通して高圧帯の下にある地域では年中降水量が少ない。

季節風(モンスーン) 大陸は温まりやすく冷めやすい。一方、海洋は温まりにくく冷めにくい。この大陸と海洋の温度の違いなどにより、冬には冷やされた大陸上に高気圧が生じて陸から海に向かって風が吹き、夏には温められた大陸上に低気圧が生じて海から陸に向かって湿った風が吹く。こうして、季節によって風向きが変わる季節風(モンスーン)が現れる。夏の間は、特に東アジアから南アジアにかけて大量の降水をもたらす。この地域の稲作地帯は、季節風がもたらす夏の豊富な降水に支えられており、米の二期作や三期作が行われている場所もある。一方で季節風がもたらす大雨は、毎年のように世界各地で洪水や地すべりなどの災害を引き起こしている。

- 偏西風 一年中決まった方向に吹く恒常風の一つで、南北半球の中緯度地帯の上空を西から東へ吹く風のこと。これにより、中緯度地帯では天気も西から東へ変わる。
- 季節風(モンスーン) 季節によって風向きが変わる風のこと。大陸と海洋の温度差が原因で生じ、冬には陸から海へ、夏には海から陸へ向かって吹く。
- 二期作 同じ耕地で同じ作物を年2回栽培・収穫すること。年3回栽培・収穫することを三期作という。

確認 雨季と乾季が生じる要因を確認しよう。

説明 季節風は、人々の生活にどのような影響を与えているのか説明しよう。

POINT 3

同じ場所でも撮影された時期が異なったり、同じ時期であっても場所が異なったりする写真を随所に掲載しています。複数の写真の比較から、さまざまな疑問が生まれ、生徒が興味・関心をもって、地域の特徴や景観の変化を考察できるようにしています。

● 比較ができる写真 掲載ページの例

ページ	テーマ
p.7 5	北極圏に位置する街の夏と冬の様子
p.58 12	熱い地域と寒い地域の市場
p.61 67	雨季と乾季のサバナ
p.76 112	雨季と乾季のトンレサップ湖
p.122 1	シェンチェン(深圳)の変化
p.140 1	アマゾン川流域の熱帯林の伐採
p.142 1	後退する氷河
p.176 1	ドックランズの再開の様子
p.204 12	土石流とその後被災地に建設された砂防ダム
p.213 6	東日本大震災の津波で被災した田老地区の復興の様子

● 「生活文化」単元に設けた系統地理的な学習項目

- 1 節 世界の地形と人々の生活 46
 - 1 生活の舞台となる地形 46
 - 2 大地形と人々の生活 48
 - 3 河川がつくる地形と人々の生活 50
 - 4 海岸の地形と人々の生活 52
 - 5 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活 54
 - SKILL 8 地形図の利用—小地形と土地利用— 56
 - SKILL 9 空中写真の利用 57
- 2 節 世界の気候と人々の生活 58
 - 1 気温・降水量と人々の生活 58
 - 2 大気大循環と人々の生活 60
 - 3 世界の植生と気候分布 62
 - SKILL 10 雨温図・ハイサーグラフの見方 64
 - SKILL 11 写真の読み取り方—気候— 65
 - 4 熱帯の生活 66
 - 5 乾燥帯の生活 68
 - 6 温帯の生活 70
 - 7 亜寒帯・寒帯の生活 72
 - SKILL 12 写真の読み取り方—生活文化— 74
- 3 節 世界の言語・宗教と人々の生活 84
 - 1 世界の言語と人々の生活文化 84
 - 2 世界の宗教と人々の生活文化 86
- 4 節 歴史的背景と人々の生活 96
 - 1 歴史的背景が人々の生活に与える影響 96
- 5 節 世界の産業と人々の生活 110
 - 1 人々の生活を支える農業の発展 110
 - 2 人々の生活を支える工業の発展 112
 - 3 産業のグローバル化と人々の生活 114

- 自然環境、言語・宗教、歴史的背景、産業などの視点から生活文化の学習を深められる地域事例を世界の主要な10の国と地域で構成し、選択的に学べるようにしています。
- 地域事例は、生活文化に関する主題を軸に、地域の伝統的な生活とその変化の実態を把握できる展開になるよう改善しました。

POINT 1

伝統的なイスラームを中心とした生活文化が、石油収入による経済発展や国際化への対応により、変化している様子を描いています。

▼ p.88-89

▶ p.90-91

選択事例 宗教 ① **イスラームと人々の生活** —中央アジア・西アジア・北アフリカ—

事例の主題 中央アジアから北アフリカにかけての地域では、イスラームを信仰する人々が多い。この地域の生活文化は、宗教からどのような影響を受けているのだろうか。

1 ムスリムの割合(主に2020年)
80%以上
50-80%
50%未満
資料なし

2 ムスリムの割合とイスラームの伝播

3 ムスリムの割合とイスラームの伝播

4 カールバートンに集まった巡礼者(サウジアラビア、メッカ、2022年7月) 中央に位置する黒い立方体の建造物が、カールバートン。

5 メッカの方向を確認することができるスマートフォンのアプリケーション 現在の日の出・日の入りの時刻など、礼拝の時間を確認できる。

6 ムスリムは、なぜメッカの方向を確認する必要があるのだろうか。

7 ムスリムの割合とイスラームの伝播

1 イスラームを中心とした生活文化

学習課題 イスラームは、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。



2 ムスリム イスラームを信仰する人々のこと。イスラームの聖典コーラン(クルアーン)などに記された日常生活のきまりを守って暮らしている。

中央アジアから北アフリカにかけての地域には、乾燥帯の地域が多いという自然環境の共通性とともに、ムスリムが多く、さまざまな国でイスラームの考え方や慣習が生活文化や社会に影響を与えているという共通性がある。イスラームは7世紀にアラビア半島でおこり、乾燥地域のオアシス都市を結んでいた交易路に沿って、西アジアや北アフリカ、そして中央アジアなどに広がった。

イスラームの教えが記された聖典コーラン(クルアーン)は、アラビア語で書かれている。このことから、イスラームではアラビア語が重視されており、人々は幼少のころからコーランを通して、アラビア語の読み方などを学ぶ。コーランには、1日5回、聖地メッカの方向に礼拝すること(写真2)、イスラーム暦の断食月(ラマダーン)には日中の飲食をしないこと(写真3)、生涯に一度はメッカに巡礼すること(写真4)など、ムスリムが守るべき宗教儀礼が記されている。また、豚肉や酒を飲食せ

1 人工島 パーム・ジュメイラ(アラブ首長国連邦、ドバイ、2019年1月) 高級ホテルや別荘が立ち並んだリゾートとして知られている。

2 ペルシア湾岸の産油国で働く外国人労働者の送金先

3 アラブ首長国連邦の人口ピラミッド

4 アラブ首長国連邦の人口ピラミッドの男女比がいつになっているのはなぜだろうか。

5 建設現場で働く外国人労働者(アラブ首長国連邦、ドバイ、2015年2月) インドやパキスタンから出稼ぎに来た人が多い。

6 建設現場で働く外国人労働者(アラブ首長国連邦、ドバイ、2015年2月) インドやパキスタンから出稼ぎに来た人が多い。

2 変化するムスリムの生活

学習課題 国の経済が発展するなかで、ムスリムの生活はどのように変化しているのだろうか。

石油収入がもたらした生活の変化 砂漠やステップが広く分布する中央アジアから西アジア、北アフリカにかけての地域では、人々は水が得られるオアシスの周辺に都市をつくり、交易や遊牧で生計を立ててきた。そのような生活に大きな変化をもたらしたのが、石油収入(オイルマネー)である。特に西アジアの産油国は、石油から得られる利益を石油産業の育成や農業開発、インフラ整備などに使った。アラブ首長国連邦やカタール、バーレーンでは多くの近代的な巨大建造物が建てられ、リゾート開発や金融センターの育成など、新しい産業の振興も進められている(写真1)。このような地域では、人々は自宅やモスク、商業施設などに冷房を完備して快適な生活を過ごしている(写真2)。水も、豊かな資金とエネルギーを利用して海水を淡水化し、飲み水だけでなく、モスクの周りの植栽や噴水などに使っている。

これらの生活や街の変化を支えているのが、外国人労働者である。自国民が好まない建設現場などの屋外の作業などは、南アジアから出稼ぎに来た男性の外国人労働者が多くを担っている(図2、写真3)。そのため、人口の大半が外国人となり、その構成もいつになっている(図4)。



POINT 2

「Q」は、人口ピラミッドや写真、地図などから多角的な考察を促しています。

コラム 地域を大きく変化した石油資源

1 人あたりのGNI(主に2023年)
2万ドル以上
5000-2万
1000-5000
1000ドル未満
資料なし
*日本は37903.6(2022年)(World Bank資料)

2 中央アジア・西アジア・北アフリカの油田の分布と1人あたりのGNI

3 原油の生産国と輸出国

4 自動車運転の講習を受ける女性(サウジアラビア、ジッダ、2018年) 石油に頼らない(脱石油)の経済改革や、女性の社会進出を推進する政策のなかで、女性による運転も解禁された。

5 確認 経済の発展がムスリムの生活に与えた変化を確認しよう。

6 説明 中央アジア・西アジア・北アフリカにおいて、石油資源の開発によって生じている問題について説明しよう。

イスラームの教えと国際化への対応 西アジアにはイスラームの教えを守っている国が多いが、石油収入がもたらした経済の発展により、宗教の教えに基づいた伝統的な人々の生活は変化している。サウジアラビアはイスラームの教えに厳格で、ほかの地域からみると女性への制限が厳しく感じられる国である。しかし2018年に、これまで禁じられていた女性への運転免許交付を認めるなど、女性の社会進出が進みつつある(写真4)。アラブ首長国連邦では、外国からの観光客や投資呼び込みのため、2020年に法律改正を行い、イスラームの教えに基づき制限されていた飲酒などの規制の緩和も進んでいる。

地域が抱える課題 このように産油国では、石油収入を利用して自国民の生活改善を進めている。しかし、建設現場などで働く外国人労働者は自国民と区別され、厳しい条件で労働している場合も多く、各国から待遇改善を求める声もあがっている。

さらに、産油国と非産油国との間の経済格差が拡大している。また、欧米文化が浸透してきたことに対して、イスラームの文化を守ろうとする機運が高まるだけでなく、なかには過激な手段でイスラームに基づく国家を築こうとする運動もあり、政情不安をもたらしている。

事例の振り返り イスラームは、中央アジアから北アフリカにかけての地域の人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。

●「生活文化」単元で事例を取り上げた国・地域と主題(全10地域)

ページ	国・地域	主題
p.76-79	東南アジア	モンスーンの影響を受ける地域での生活
p.80-83	オセアニア	多様な自然環境から影響を受ける人々の生活
p.88-91	中央アジア・西アジア・北アフリカ	イスラームと人々の生活
p.92-95	インド	ヒンドゥー教と人々の生活
p.98-101	ラテンアメリカ	結びつきの歴史と人々の生活
p.102-105	サハラ以南アフリカ	植民地支配の歴史と人々の生活
p.106-109	ロシア	国家体制の変化と人々の生活
p.116-121	アメリカ合衆国	人々の生活を支える産業とグローバルな結びつき
p.122-127	東アジア	経済成長による人々の生活の変化
p.128-133	ヨーロッパ	環境に配慮した産業と人々の生活

特色

①

系統地理と地域事例で構成した

▶ 臨場感ある写真と因果関係がわかる本文記述

- 人々の暮らしが見える**臨場感ある写真**を厳選して、掲載しています。
- 地理的事象の**因果関係**や**背景**がわかる**本文記述**によって、地理的な見方・考え方を働かせた学習ができるようにしています。

POINT 1

導入資料は、**景観と衣食住**のように、**写真の役割を明確**にすることで、**気候と生活文化の関係性**を読み解きやすくしています。

▼ p.70-71



丘陵につくられたぶどう畑とオリーブ畑 (イタリア、プーリア州、2019年6月) ぶどうは生で食べられることは少なく、主にワインに加工される。

イタリアで写真1~4のような景観や衣食住がみられるのはなぜだろうか。



↑2 コートやダウンジャケットを着用する人々(イタリア、ナポリ、2022年12月)



↑3 オリーブを使ったピザやパスタを食べる様子(イタリア、ローマ、8月)



↑4 窓によろい戸のある住居(イタリア) よろい戸で日差しをさえぎり、風通しをよくしている。

6 温帯の生活

学習課題 温帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。



↑5 コルクの収穫(スペイン、コルドバ、6月) コルクがしは地中海沿岸が原産とされ、樹皮からワインの瓶の栓などに使う厚いコルク層を採取する。約9年で樹皮が再生する。

四季のある温帯の生活 温帯は、樹林がみられる温帯な気候で、四季の変化が明瞭である。古くから農業が盛んに行われ、多くの人が生活してきた。日本の大半も温帯に属する。

地中海に面するイタリアでは、夏は強い日ざしにより暑く乾燥するが、冬はやや寒くなる。このため、夏は半袖、冬はコートを着用する(写真↑2)。食事はピザやパスタなど、小麦やオリーブが使われる料理が多い(写真↑3)。伝統的な住居は、断熱性が高く夏の日光を反射しやすいしっくい壁が白く塗られたり、よろい戸がつけられたりしている(写真↑4)。

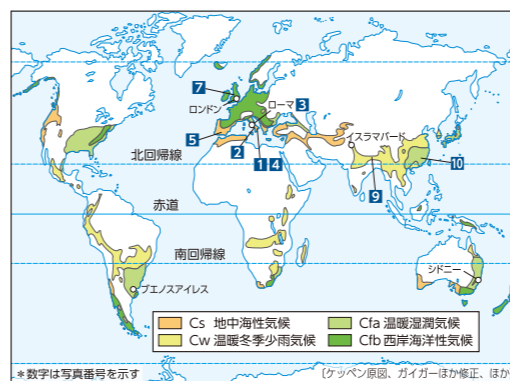
(1)地中海性気候(Cs) 地中海性気候は、主に中緯度の大陸西岸に分布する。年降水量は比較的少なく、夏は暑くて乾燥し、冬に降水が集中する。耐乾性強いオリーブやコルクがしなどの硬葉樹、ぶどうやかんきつ類などの樹木作物の栽培が盛んである(写真↑1・↑5)。地中海沿岸には、温暖な気候を求めて観光客が集まるリゾートになっている場所もある。

「生活文化」

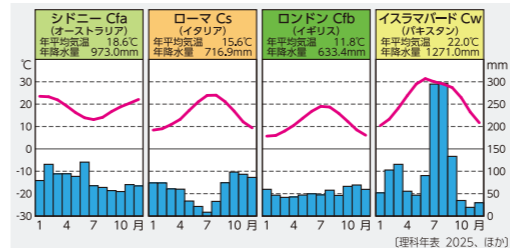
述

POINT 4

p.66-73の各気候帯のレイアウトは、写真や分布図、雨温図といった資料の配置を固定しています。比較しやすいレイアウトにより、気候・植生と人々の生活との関わりや、各気候帯の違いを考察しやすくしています。



↑6 温帯の分布 読み解き 各気候の位置や範囲に着目しよう。



↑8 温帯の気温と降水量

(2)西岸海洋性気候(Cfb) 西岸海洋性気候は、主に大陸西岸にみられ、温帯のなかでは最も高緯度に分布する。年降水量はあまり多くないが、季節にかかわらず降水がみられる。大西洋北東部では、暖流である北大西洋海流を偏西風が吹くため、冬は緯度のわりに温和である。また、混合農業や酪農(写真↑7)が盛んで、牛や羊の放牧が行われる地域もある。

(3)温暖冬季少雨気候(Cw) 温暖冬季少雨気候は、サバナ気候の高緯度側と、大陸東岸の一部に分布する。夏には熱帯並みの暑さとなり降水量も多いが、冬の降水量は少ない。アジアでは米の二期作や茶の栽培(写真↑9)が盛んに行われている。

(4)温暖湿潤気候(Cfa) 温暖湿潤気候は、主に中緯度の大陸東岸に分布する。季節風の影響が強く、気温の年較差が大きい。年降水量は多く、夏から秋にかけては前線や熱帯低気圧によって大雨になることがある。森林には常緑広葉樹・落葉広葉樹・針葉樹が混在している。東アジアでは、豊富な降水を利用して稲作が行われてきた(写真↑10)。アメリカ合衆国の中央平原や、南アメリカ南東部の湿潤パンパでは、小麦やとうもろこしの栽培と牛や豚の飼育を組み合わせた混合農業が盛んである。

景観写真、衣食住の写真

5 乾燥帯の生活 乾燥帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。

乾燥帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。



↑7 牧場で放牧される乳牛(イギリス、プレストン、2023年9月)



↑9 茶の収穫(インド、ダーズリン、2016年10月)

●混合農業 食用の麦類、根菜類、飼料作物の栽培と、家畜の飼育を組み合わせた農業のこと。

●熱帯低気圧 熱帯付近の海洋上で発生する前線を伴わない低気圧のこと。強風や大雨、高潮を伴い、各地に甚大な災害をもたらすことがある。風の強いものは、東アジアでは台風、北アメリカではハリケーン、インド洋や南太平洋ではサイクロンとよばれる。

●パンパ アルゼンチンのラプラタ川流域、プエルトアイレスを中心に広がる大草原のこと。東側の年降水量が比較的多い地域は、湿潤パンパとよばれ、混合農業が盛んである。一方、西側の年降水量の比較的小さい地域は乾燥パンパとよばれ、ステップで放牧が行われている。

- ✓確認 温帯の各気候の分布や気温・降水量の特徴を確認しよう。
- ✓説明 温帯の気候と植生は、衣食住や産業とどのように関わっているのか説明しよう。

POINT 2

イタリアの気候と人々の生活の因果関係がわかる本文記述にしています。

POINT 3

写真と本文を連動させることで、人々の生活がイメージできるようにしています。

POINT 5

各気候の説明を(1)~(4)と区分けし、生徒が理解しやすい本文の構成にしています。

POINT 6

各気候の本文の構成を、分布→気温と降水量→農業の順に統一することで、特徴を整理しやすくしています。

全体構成

見開き構成

特色①

特色②

特色③

特色④

QRコンテンツ

関連教材

「生活文化」単元

2部 1章 2節 選択事例 自然① 東南アジア

1. モンスーンの影響と人々の生活

●「生活文化」単元では、地形や気候、歴史的背景、産業などの地理的環境を学んだ後に、それらの影響を受けて形成された生活文化の具体例を地域事例として扱っています。この見開きでは、モンスーンの影響を受けて形成された東南アジアの人々の生活文化を学習します。

POINT 1
導入資料の写真1、2は、雨季と乾季のトンレサップ湖の同じ場所の写真を掲載し、湖の水位の変化など比較して考察できるようにしています。

POINT 2
図3、写真4、図5のように導入写真と関連する複数の資料を掲載しています。高床住居がみられる要因や人々の生活への影響を多面的・多角的に考察することで、地理的な見方・考え方が養えるようにしています。

POINT 3
帝国書院の社員が取材し撮影した、人々の暮らしや地域の様子の写真を掲載しています。

▼ p.76-77

選択事例 自然① **モンスーンの影響を受ける地域での生活 — 東南アジア —**

事例の主題 東南アジアは、季節風(モンスーン)の影響を強く受けた地域である。このような気候を生かして、東南アジアではどのような生活文化が育まれてきたのだろうか。

Q トンレサップ湖周辺で、高床住居がみられるのはなぜだろうか。

↑1 雨季のトンレサップ湖(カンボジア、2018年10月)

↑2 乾季のトンレサップ湖(カンボジア、2019年3月)

↑3 季節による風向と降水量の変化

1 **モンスーンの影響と人々の生活**

学習課題 季節風(モンスーン)は、東南アジアの人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。

モンスーンの影響を受ける人々の生活 カンボジアのトンレサップ湖周辺で暮らす人々は、高い杭の上に住居を構えている(写真4)。このような住居がみられるのは、季節風(モンスーン)の影響で雨季になると湖の水量が増えるためである(写真1)。

東南アジアは、マレー半島および列状に連なる島々からなる島嶼部と、インドシナ半島を中心とした大陸部に分けられる。島嶼部が位置する赤道付近は、1年を通して雨が降り、熱帯雨林気候になっている。一方、インドシナ半島は、夏は雨季、冬は乾季をむかえるサバナ気候になっている(図3・5)。熱帯に属するこの地域では、気温と湿度が高いため、通気性のよい衣服が好んで着用されている(写真3)。

人々は自然環境に応じた暮らしを営んできたが、地域によっては環境を改変して新たな生活文化を築くこともあった。例えば、メコン川などの河口付近に形成されている広大な三角州(デルタ)では、雨季には水没

自社撮影

↑4 トンレサップ湖の高床住居(カンボジア)

↑5 主な都市の気温と降水量

76 中学校との関連 季節風(モンスーン) 雨季 乾季 三角州(デルタ) イスラム(イスラム教) 仏教

1 **2** **3** **4** **5** **6** **7** **8**

東南アジアの交易と宗教の伝播

東南アジアの言語と宗教 読み解き 各国の宗教や言語の違いに着目しよう。

する場所が多く、居住や農業には不向きであった。しかし、近代以降に運河や水路がつくられ、土地の改良も行われたことで人々が移り住み、農業・商業ともに活発になった。

モンスーンを利用した交易の歴史 東南アジアでは、古代から季節風を活用した海上交易が行われてきた(図6)。特に島嶼部は海上交通の拠点となった。東南アジアの各地には、西アジアのイスラム商人をはじめ、中国やインドなどから多くの人が渡来し、言語や宗教といったさまざまな文化がもたらされた(図7)。宗教を例にとると、イスラム商人がもたらしたイスラム(イスラム教)は、交易の拡大とともにマレー半島や周辺の島々に広がった。現在、インドネシアは世界最大のイスラム人口をもつ国として知られている。大陸を通して伝えられた仏教は、タイやカンボジアなどで現在でも人々の生活に大きな影響を与えている。

さまざまな民族が共に暮らす社会 交易や植民地化の歴史を通して、東南アジアの国々は多くの民族が混在する多民族国家となった。例えばマレーシアでは、マレー系住民が人口の7割を占める一方で、華僑や華人とよばれる中国系住民や、インド系住民も多い。マレー系住民はマレー語、中国系住民は中国語、インド系住民はタミル語を日常語として用いるが、他民族間で会話をしている際には英語も用いられる。マレーシアでは、都市部に多く経済面で優位にたつ中国系住民と、農村部に多いマレー系住民との間に対立が生じた。そのためマレーシア政府は、マレー系住民を教育や就労の面で優遇して農業以外の分野にも進出できるように配慮するプミプトラ政策を導入し、民族の共生を進めている。

自社撮影

↑8 ベトナムの民族衣装アオザイを着た人(ベトナム、ハノイ、2023年8月) アオザイは、木綿などの薄い生地できているため、通気性がよい。

●華僑 中国から外国に移住した中国人で、中国国籍を有する人々のこと。

●華人 外国で生まれ、その国の国籍を取得した中国系の人々のこと。華僑も含まれた中国系住民を広く指す場合もある。

☑ **確認** 東南アジアの大陸部の気候の特徴と季節風の関係を確認しよう。

☑ **説明** 東南アジアの国々が多民族国家となった背景を自然環境と歴史の両面から説明しよう。

地図帳活用 東南アジアの地図で、大きな河川とその流域の都市を調べよう。

77

POINT 4
地図や雨温図は、見やすい配色で、生徒が読み取りやすいよう工夫しています。

POINT 5
季節風を利用した海上交易と、東南アジアにおける宗教の伝播の因果関係を丁寧に記述しています。

導入 10 min

導入の「Q」の問い「トンレサップ湖周辺で、高床住居がみられるのはなぜだろうか。」について考えさせる。その際、写真1と2を比較しながら、自身の考えをまとめさせ、グループで意見交換をさせる。学習課題を確認し、季節風(モンスーン)が東南アジアの人々の生活に与えている影響について学ぶことを予告する。

展開1 15 min

「東南アジアで雨季と乾季の降水量の違いが大きいのは、どういった地域だろうか。」と問いかけ、図3の地図や図5の雨温図をもとに地図上で特徴的な地域を見つけさせる。季節風(モンスーン)が人々の生活に与える影響を考えさせて、生徒の意見を黒板にまとめる。

展開2 20 min

図6や図7の地図を参照させて、東南アジアでイスラムや仏教が広まった背景を、季節風(モンスーン)を利用した海上交易と結びつけて説明する。その際、現在インドネシアが世界最大のイスラム人口をもつ国であることや、大陸部の国で仏教徒が多いことを確認させる。また、海上交易や植民地化の歴史を通して、東南アジアの国々が多民族国家となったことを解説する。

まとめ 5 min

「確認」の問いに取り組みさせる。解答を確認し、「説明」の問いに取り組みさせ、見直し・振り返りシートに記入させる。教員は、季節風(モンスーン)が人々の生活に与えた影響を衣食住や宗教、民族など、複数の観点からまとめる。最後に次回は、東南アジアの気候を生かした農業について学習することを予告する。

課題解決に向けての学びができる

▶ 地理的な課題の解決に向けて探究できる

- 唯一の正解が見いだしにくい地理的な課題に向き合い、解決に向けて探究する力を養う特設「アクティブ」を「地球的課題」単元で4テーマ（8ページ）新設しました。
- 問いの流れは、資料をもとに自分なりの考えをまとめる→意見交換をして視野を広げる→自分の考えを見直す、といった構成にし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指しました。
- 観点別評価の「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」を見取れるようにしています。

NEW

▼ p.146-147

POINT 1
メインタイトルを疑問形の発問とすることで、生徒が関心をもって取り組めるようにしています。

POINT 2
立場や意見が異なる6か国を取り上げており、各国の足並みがそろわない理由を考察できるようにしています。

POINT 3
各国の経済状況や二酸化炭素排出状況に関するデータを豊富に掲載しており、現状を多角的にとらえることができます。

アクティブ
持続可能な社会に向けて

二酸化炭素をどう削減する？

現状を整理して、日本が目指すべき将来の立場を考えよう

二酸化炭素の排出削減に対する政策は国によって大きく異なる。なぜ各国で足並みがそろわないのだろうか。ここでは、1節「地球環境問題」の学習内容をもとに、経済状況と二酸化炭素の排出削減に対する各国の状況を整理して考えよう。それをもとに、日本が二酸化炭素の排出量を削減するためには、どのような取り組みが必要か考えよう。

国名	A モルディブ	B 中国	C インド
各国の様子や取り組みの例	水没の危機にさらされる街	石炭を燃料とする火力発電所	自動車の排ガスなどによるスモッグ
人口(2023年)	59万人 (174%)	14億4235万人 (103%)	13億6717万人*1 (113%)*3
GDP(2023年)	0.007兆ドル (210%)	17.79兆ドル (164%)	3.55兆ドル (171%)
1人あたりのGDP	1万2667ドル (137%)	1万2614ドル (163%)	2485ドル (164%)*3
CO ₂ 排出量(2022年)	0.02億トン (144%)	106.13億トン (117%)	25.17億トン (122%)
1人あたりのCO ₂ 排出量	3.68トン/人 (93%)	7.52トン/人 (114%)	1.78トン/人 (113%)
パリ協定における主なCO ₂ 削減目標	2030年までに、二酸化炭素を含む温室効果ガス排出量を26%削減する。(2011年比)	2030年までに、GDPあたりの二酸化炭素排出量を60~65%削減する。(2005年比)	2030年までに、GDPあたりの二酸化炭素排出量を33~35%削減する。(2005年比)

国名	D アメリカ合衆国	E ドイツ	F 日本
各国の様子や取り組みの例	砂漠につくられた太陽光発電所	石炭の使用に反対する人々	住宅に設置されている太陽光パネル
人口(2023年)	3億3491万人 (104%)	8435万人 (104%)	1億2512万人*2 (99%)
GDP(2023年)	27.36兆ドル (152%)	4.46兆ドル (133%)	4.21兆ドル (102%)
1人あたりのGDP	8万1695ドル (146%)	5万2746ドル (128%)	3万3834ドル (104%)
CO ₂ 排出量(2022年)	46.08億トン (92%)	6.12億トン (84%)	9.74億トン (85%)
1人あたりのCO ₂ 排出量	13.81トン/人 (89%)	7.30トン/人 (82%)	7.79トン/人 (87%)
パリ協定における主なCO ₂ 削減目標	2025年までに、二酸化炭素を含む温室効果ガス排出量を26~28%削減する。(2005年比)	2030年までに、二酸化炭素を含む温室効果ガス排出量を55%削減する。(1990年比)	2030年までに、二酸化炭素を含む温室効果ガス排出量を26%削減する。(2013年比)

↑1 主な国の経済状況と二酸化炭素(CO₂)排出状況 ※(%)はパリ協定が採択された2015年比 *1 2021年 *2 2022年 *3 2012年比

る「地球的課題」

「アクティブ」

● 特設「アクティブ」のテーマ一覧(全7テーマ)

ページ	テーマ	ページ	テーマ
p.24-25	テーマパークをどこにつくる？	p.180-181	地球的課題をどう解決する？
p.146-147	二酸化炭素をどう削減する？	p.208-209	自然災害に強い土地利用は？
p.156-157	日本にとって最適な電源構成は？	p.214-215	災害発生！どちらを選ぶ？
p.170-171	慢性的な飢餓をなくすには？		

STEP 1 各国の経済状況や二酸化炭素の排出状況をグラフにまとめよう

表1のA~Fの国について、「1人あたりのGDP」、「1人あたりのCO₂排出量」、「CO₂排出量」に関するグラフを作成しよう。また、作成したグラフから、各国の経済状況や二酸化炭素の排出状況について比較し、それぞれの国の特徴を読み取ろう。

↑2 主な国の1人あたりのGDP

↑3 主な国の1人あたりのCO₂排出量

↑4 主な国のCO₂排出量

STEP 2 各国の状況を整理しよう

STEP1で作成したグラフや、表1を参考に、「GDP」「1人あたりのGDP」「CO₂排出量」「1人あたりのCO₂排出量」の4項目から2項目選んで、右の図の座標軸を決めよう。

その後、座標軸の適当な場所に表1中のA~Fの国名を記入し、そこから読み取れることをまとめよう。思考ツール(座標軸)の使い方はQRコンテンツを確認しよう。

例) CO₂排出量が多い

例) アメリカ合衆国

例) 1人あたりのGDPが高い

STEP 3 日本の取り組みを考えよう

日本は二酸化炭素の排出削減に向けて、どのような立場を目指すよいのだろうか。また、その立場を実現するためには、どのような課題を解決する必要があるのだろうか。STEP2で作成した図や、表1、1節の学習内容を踏まえてまとめよう。

日本が目指すべき立場	
現在の課題	
課題解決のために必要な取り組み	

STEP 4 意見交換をしてあなたの考えをまとめよう

STEP3で考えた日本が目指すべき立場と必要な取り組みについて、意見交換をしよう。意見交換後、あなたの考えは変わったのだろうか。考えが変わった理由、変わらなかった理由をまとめよう。

2章1節 地球環境問題

POINT 4
生徒が統計データをグラフや思考ツールで整理する作業を通して、データを分析する技能や、表現する力を養うことができます。

POINT 5
STEP3では、「思考・判断・表現」を評価しやすい問いを設定しています。

POINT 6
最後のSTEPを、自身の考えやその変化を振り返る活動にすることで、「主体的に学習に取り組む態度(特にみずからの学びを調整できる力)」を評価できるようにしています。

全体構成

見開き構成

特色①

特色②

特色③

特色④

QRコンテンツ

関連教材

地球的課題の各項目に日本の事例を新設

- 発展途上国と先進国など、立場や環境の異なる**複数の具体事例**を掲載しています。
- 地球的課題の各項目で、**日本の事例を新設**しました。他国の地球的課題の解決に向けた取り組みと比較することで、**地域性を踏まえて、日本における地球的課題の解決の方向性を考察**することができます。

NEW

POINT 2

本文の理解を深める写真、地図、グラフといった資料を、該当のページに効果的に配置しています。

日本の事例のテーマ一覧(全5テーマ)

ページ	テーマ
p.144	日本の地球温暖化対策
p.154	日本のエネルギー問題
p.164	日本の人口問題
p.169	日本の食料問題
p.177	日本の都市・居住問題

p.152-153

さとうきび畑

さとうきびのしほりかす

↑ さとうきび畑に併設する工場(ブラジル、2020年5月) 砂糖とバイオエタノールがつくられている。

↓ バイオエタノール

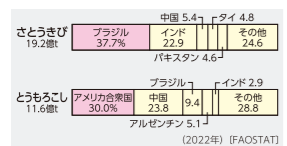
↑ ガソリンスタンドで売られるバイオエタノール(ブラジル、サンパウロ州、2019年)

Q なぜブラジルでバイオエタノールが普及しているのだろうか。

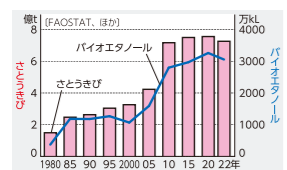
3 地域で異なるエネルギー問題

学習課題 エネルギー問題への取り組みには、どのような地域的差異がみられるのだろうか。

バイオエタノール さとうきびやとうもろこしなど、植物(バイオ)を発酵・蒸留して生成したエタノールのこと。



↑ さとうきびととうもろこしの主な生産国



↑ ブラジルのさとうきびとバイオエタノールの生産量の推移

バイオエタノールに力を入れるブラジル

世界各国は、再生可能エネルギーの利用を拡大することで、化石燃料への依存を軽減する努力を行っている。広大な農地に恵まれた北・南アメリカ大陸では、植物を発酵・蒸留して得られる**バイオエタノール**が燃料として商業化され(写真1)、ブラジルではさとうきび、アメリカ合衆国ではとうもろこしが原料に広く利用されている。植物に含まれる炭素はもともと大気から取り込まれたものであるため、バイオエタノールは燃焼させても化石燃料のように二酸化炭素を増やさないという利点がある。

世界最大のさとうきびの生産国であるブラジルでは(図4)、1930年代から国家主導によるバイオエタノールの生産が行われてきたが、原油価格が世界的に高騰した2000年代に入り、ガソリンの代替エネルギーとしてバイオエタノール生産量が急増した(図3・5)。ブラジルでは、ガソリンとバイオエタノールを混合した燃料で走行可能なフレックス燃料車が普及しており、運転手は双方の価格や燃費を考慮して給油する(写真2)。ただし、バイオエタノール向けのさとうきびの増産は、農地拡大に伴う環境破壊をもたらししているという批判がある。また食料輸入国を中心に、農産物を燃料として利用することへの反発も強い。

洋上風力発電に力を入れるデンマーク

偏西風を利用できる西ヨーロッパでは風力発電が盛んであり、なかでもデンマークは、風力発電に関する技術開発で世界をリードしている。デンマークは、1980年代半ばには原子力発電を導入しないことを正式に決定し、風力発電の普及にいち早く取り組んできた。2000年代以降は、安定して強い風が吹く洋上への風力発電の建設が進み、電力供給の多くを風力発電で賄うようになった(写真7)。洋上の風力発電機は巨大な設備を必要とするため、デンマークには風力発電の関連産業が集積している。

ヨーロッパでは、デンマーク以外の国でも再生可能エネルギーの利用が早くから推進され(図9)、エネルギー市場の統合(図6)も進められてきた。現在では、国境を越える送電網が整備され、さまざまな方法で発電した電力を、相互に融通し合う取り組みが広がっている。例えば、デンマークで風が弱く発電量が少なくなるときはノルウェーから電力を輸入し、風が強く発電量が多いときには余剰電力をノルウェーに輸出している。一方のノルウェーでは、安く購入したデンマークの余剰電力を水力発電用ダムの揚水に利用するなど、両国にとって有効な取り組みとなっている(写真7、図8)。

p.154

変電所

風力発電所

↑ 洋上の変電所(デンマーク沖、2017年) デンマークとノルウェーは、海底に敷かれた送電線を使って電力を融通し合っている。

↑ 日本の発電量の内訳の変化

↑ 日本の主な火力・原子力・大規模な水力発電所の分布

日本のエネルギー問題

日本は、国内で消費する化石燃料を輸入に頼ってきた。そのため、1次エネルギーをもとに生み出す電力も、輸入される化石燃料に大きく依存している。

日本の電力供給は、電力需要が増じた高度経済成長期以降、石油や石炭を燃料とする火力発電、ウランを利用した原子力発電といった、安定的に大量の発電が可能な**大規模集中型発電**が中心であった。しかし2011年に起こった福島第一原子力発電所の事故以降、多くの原子力発電所が安全面の課題から運転を休止しており、現在、日本の電力供給は、火力発電の割合が高くなっている(図2)。

近年は、化石燃料の輸入に頼る必要がなく、温室効果ガスの発生も少ない**再生可能エネルギー**による発電が推進されている。特に**太陽光発電**の導入は、多くの住宅や遊休地に太陽光パネルが設置されたことで急増した(写真3、図4)。ほかにも、地域の特徴に合わせたエネルギー源を利用して、地域が消費する電力をその地域で賄う、**エネルギーの地産地消**を目指す取り組みも進められている。さまざまな場所で再生可能エネルギーを利用して、小規模に発電した電力を組み合わせるしくみは、大規模集中型発電に対して**小規模分散型発電**とよばれる。ただし、再生可能エネルギーは、天候などの影響を受けやすいため、安定的な発電が難しい。そこで、地域内でエネルギー需給を制御する**スマートグリッド**の導入が進められている。**持続可能な社会**を実現するためには、小規模分散型発電と大規模集中型発電を組み合わせるなど、バランスのとれた電力の供給体制を整えることが重要である。

POINT 1

バイオエタノールに力を入れるブラジルと、洋上風力発電に力を入れるデンマークを比較しています。他国の事例と比較することで、日本のエネルギー問題の解決策を多角的に考察できます。

POINT 3

日本の事例を新設しました。大規模集中型発電と小規模分散型発電といったように、近年注目されている新しい知見を反映しています。

「地球的課題」単元

2部 2章 3節 人口問題

2. 発展途上国の人口問題

▼ p.160-161

POINT 1
導入資料の写真1、図2～4はすべて関連した資料になっています。生徒が豊富な資料から考察することで、思考力・判断力を養えます。

POINT 2
ニジェールなどの事例を通じて、生徒が具体的なイメージをもちながら、発展途上国の人口問題を学ぶことができます。

POINT 3
発展途上国で人口が増加している背景とその課題について丁寧に記述し、因果関係をとらえやすくしています。

↑1 子だくさんの家族(ニジェール、アガデス)

↑2 ニジェールの人口ピラミッド

↑3 世界の合計特殊出生率

↑4 世界の乳幼児死亡率

2 発展途上国の人口問題

学習課題 発展途上国には、どのような人口問題があり、どのような対策が行われているのだろうか。

●合計特殊出生率 1人の女性が一生の間に産む子の平均値のこと。先進国で人口を維持するためには約2.1の水準が必要であり、これを下回ると人口が減少する。

出生率の高い発展途上国、とりわけアフリカ諸国では合計特殊出生率が高く、ニジェールの場合、1人の女性が一生の間に平均して約6人の子を産んでいる(写真1、図3)。こうした高い出生率の背景には、子を貴重な労働力とする考えが根強く、多くの子が生まれていることがある。また、医療や情報が不足しているために妊娠・出産に伴う女性の死亡率や乳幼児死亡率が高い(図4)ことや、幼いころからの労働により女性の死亡率や乳幼児死亡率が低いことなども関係している。

人口増加と発展途上国では、出生率が高いのに対し、衛生環境その影響の向上や先進国で開発された医薬品の普及などで死亡率は低下しているため(写真5)、人口増加率は総じて高い。しかし、経済発展が人口増加に追いついておらず、食料や仕事は不足している。農村では、土地などの資源が過剰に開発され、環境問題につながる

160 中学校との関連 スラム

●「地球的課題」単元では、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題を主に扱っています。各課題では、世界の概要とともに、発展途上国・先進国・日本の事例を意識して取り上げています。この見開きでは、発展途上国の人口問題についてニジェールやインドの事例を取り扱っています。

↑5 2023年の人口上位国の将来人口

↑6 2023年の人口上位国の将来人口

↑7 インドの人口ピラミッド

↑8 インドの州別出生率と主な州の識字率

ある。都市では、現代的な高層ビルや商業施設とスラムが混在し、人々の経済格差が大きい。また、出稼ぎ労働者が都市のスラムに暮らしながら収入の一部を送金し、農村に残る家族を支えることは珍しくない。出稼ぎ労働者の移動先は、高収入の期待できる国外にも広がり、その送金は家族を支えるだけでなく、国の経済発展の推進力にもなっている。

インドでの人口増加抑制の取り組み

インドの人口は20世紀後半に急激に増加し、およそ14億で、世界第1位である(図6)。人口の増加に伴い、食料生産が増加し、経済発展も進んだ。しかし、貧富の差が大きく、食料を十分に得られず、栄養不足の状態の人も多い。経済発展よりも早いペースで進む人口増加を抑制するために、インド政府は、1960年代から家族計画の普及に努めてきた。その成果もあり国全体の出生率は低下し、年少人口の増加の勢いは緩やかになった。しかし、若い人口が多いために、出生率が低下しても人口増加は続く見込みである(図6)。図8で出生率の地域差を見ると、出生率は識字率の高い南部で低く、識字率の低い北部で高い。また、識字率の低い地域は経済水準も低いことから、成人女性のための読み書き教室を開設するなど(写真9)、女性の識字率の向上を図ることで、家族計画の普及のみならず、女性の社会進出を促し、国の経済発展にもつなげようとしている。

地図帳活用 世界の国別統計で、人口の多い国、人口密度の高い国、老年人口率の高い国を調べよう。

POINT 4
図6では2023年と2050年を比較することで、現在と将来の人口の変化が視覚的に理解できるようになっています。インドやナイジェリアといった将来人口が大幅に増加する国と、中国や日本のように人口が減少する国の今後の政策を考えさせることにつながります。

POINT 5
ニジェールとインドを、人口ピラミッドや本文から比較することで、共通点や相違点を考察できます。

●家族計画 家族の生活の安定などのために、出産するタイミングや子の数を計画的に調整すること。出生率が高い国では、政府が政策として家族計画を奨励することがあり、これまで不妊手術を強要するような形で人々の尊厳や価値観を傷つけるような場合もあった。

↑9 読み書きを習う農村部の女性たち(インド、ウッタール・プラデシュ州)

確認 発展途上国の人口が急増している理由を確認しよう。

説明 発展途上国の人口問題の解決のためには、どのような取り組みが必要であるかを説明しよう。

161

導入

10 min

導入の「Q」の問い「ニジェールのような発展途上国で、富士山型の人口ピラミッドの国が多いのはなぜだろうか。」について考えさせる。その際、写真1や図2～4といった複数の資料の関連性に注目しながら、自身の考えをまとめさせ、グループで意見交換をさせる。学習課題を確認し、発展途上国で起きている人口問題とその対策について学ぶことを予告する。

展開1

15 min

「合計特殊出生率と乳幼児死亡率が高い地域は、それぞれどのような地域だろうか。」と問いかけ、地図から共通する傾向を読み取らせる。次に、発展途上国で起きている人口増加の背景とその課題を考えさせて、生徒の意見を黒板にまとめる。

展開2

5 min

図6から、現在の人口の上位国を生徒に確認させる。次に、2050年にかけて、これから人口が増える国とその特徴を読み解かせる。

展開3

15 min

現在人口が1位になったインドでの人口増加を抑制する取り組みについて、解説する。発展途上国の人口問題への対策として、ほかに何ができるかを生徒に考えさせて、グループになり意見交換をさせる。

まとめ

5 min

「確認」の問いに取り組みさせる。解答を確認し、「説明」の問いに取り組みさせ、見直し・振り返りシートに記入させる。教員は、発展途上国で起きている人口問題とその対策についてまとめる。最後に次回は、先進国の人口問題とその対策について学習することを予告する。

- ビジュアルな模式図と丁寧な解説文で、地震や津波、火山の噴火、台風、線状降水帯など災害発生メカニズムを視覚的に理解できるようにしています。
- 近年、増加している線状降水帯など気象災害に関する模式図を刷新しました。

●「防災」単元の模式図一覧(全11図)

ページ	タイトル	ページ	タイトル	ページ	タイトル
p.190	2 主な地震の震源の深さ	p.196	2 火山の恵みと火山災害	p.202	2 さまざまな気象災害
p.194	1 海溝型地震のしくみ	p.200	1 噴火のしくみ	p.204	3 気象災害への対策
	2 直下型地震のしくみ		4 カルデラの形成	p.206	1 台風の模式図
	4 津波のしくみ			3 線状降水帯の模式図	

▼ p.194

POINT 1

海溝型地震と直下型地震を比較することで、それぞれの地震が発生するしくみや特性の違いを理解できるようにしています。

コラム 地震や津波が発生するしくみ

■地震のしくみ

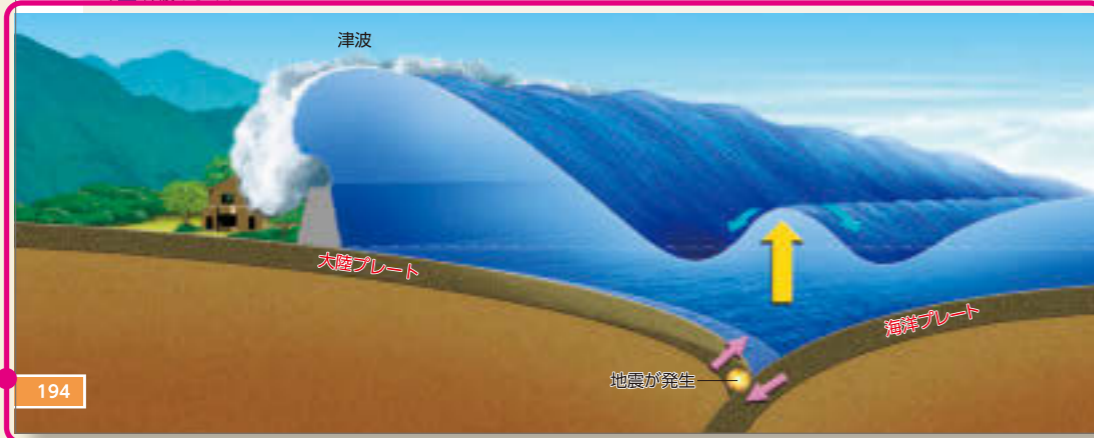
①海溝型地震 海洋プレートが沈み込むと、大陸プレートも引きずられてひずみがたまり、限界に達すると、大陸プレートが跳ね上がって地震が発生する。巨大地震はこのタイプが多い。

②直下型地震 海洋プレートの沈み込みによって大陸プレート内部に圧力がかかるとひずみがたまって活断層がずれ動き、地震が発生する。震源は地下十数kmと浅いことが多い。

■津波のしくみ

津波は、一般的に海溝型地震の発生に伴う大陸プレートの跳ね上がりによって、海底が隆起したり沈降したりすることで発生する。海底地形の変化と運動して、海水も隆起したり沈降したりする。隆起した海水は重力によって崩れ、高波となってあらゆる方向へ広がる。陸に向かった波は、水深が浅くなるにつれて高さを増し、津波となる。

③津波に襲われた海岸(インドネシア、スラウェシ島、2018年)



POINT 2

迫力ある模式図によって、津波発生メカニズムを視覚的に理解できるようにしています。

◀ p.206

コラム 台風や線状降水帯が発生するしくみ

■台風のしくみ

①台風の模式図

熱帯低気圧は、熱帯の海洋上で発生し、渦巻き状の雲を伴う。北西太平洋または南シナ海上に存在し、最大風速が秒速17.2m以上の熱帯低気圧を台風とよぶ。台風は地球の自転の影響で回転しており、上からみると数百km以上の大きさをもつ巨大な渦となっている。中心には雲のない台風の目があり、垂直に発達した厚い積乱雲が台風の目の周りを壁のように囲んでいる。積乱雲は、強い上昇気流によって発達した雲で、その雲の下では激しい雨や突風がもたらされる。このため地表では、気圧の低い台風の目に向かって強風が吹き込み、この強風とともに激しい雨が暴風雨となって吹き荒れる。また、日本に接近する台風は、太平洋高気圧の縁に沿って進み、偏西風の影響を受けて東へ進路を変えることが多い。

②台風の月別平均進路

■線状降水帯のしくみ **NEW**

③線状降水帯の模式図

線状降水帯とは、積乱雲が同じ場所に次々と発生することで生じる帯状の降水域のことで、積乱雲が同じ場所を通過したり停滞したりすることで大雨をもたらす。日本では、台風による直接的な大雨を除き、集中豪雨の約3分の2で線状降水帯が発生していると推定されている。

④線状に伸びる降水域(2020年7月4日) [日本気象協会 tenki.jp] 熊本県付近で線状降水帯が発生し、1時間の降水量が80mmを超える猛烈な雨が観測された。

⑤球磨川の氾濫により冠水した線路と道路(熊本県八代市、2020年7月4日)

POINT 3

段階ごとに描いたビジュアルな模式図で、線状降水帯が発生するしくみを視覚的に理解できるようにしています。

みずから考え行動につながる「防災」

▶ 地図を活用して、災害リスクと防災を考察

● 唯一の正解が見いだしにくい地理的な課題に向き合い、解決に向けて探究する力を養う特設「アクティブ」を「防災」単元で2テーマ(4ページ)新設しました。

NEW

災

する「アクティブ」

- 新旧の地形図やハザードマップといった地図を活用して、災害が起きやすい地域とその災害への対策を考察できるようにしています。
- 地形図から災害リスクを読み取るという実践的な活動を通じて、日常生活においても地形図やハザードマップなどを読図できる技能が身につきます。
- 災害発生時にとる行動や、災害に強いまちづくりについて、協働的に考えることができます。

▼ p.208-209

アクティブ

持続可能な社会に向けて

自然災害に強い土地利用は？

新旧地形図を比較して災害リスクと防災を考えよう

ワークシート



POINT 1
新旧の地形図を読み取りやすい大きさに掲載しています。

POINT 2
新旧の地形図を比較した際に、河川改修や、盛土・切土による宅地造成など、読み取れる要素が多い地域を選定しています。

POINT 3
STEP1~4では、地形図から考察を深めることで、思考力・判断力・表現力を養うことができます。



↑1 現在の柏崎駅周辺(新潟県)の地図



↑2 明治末期の柏崎駅周辺(新潟県)の地図

STEP 1 新旧地形図で集落の立地条件を読み取ろう

図1で示したA~Cの住宅地のうち、明治時代から集落が形成されていた場所はどこだろうか。図2と比較して一つ答えよう。また、この場所に集落が形成された理由を、標高などの自然条件、交通などの社会条件などから考えよう。

地域(A~C)	理由(自然条件)	理由(社会条件)

STEP 2 新旧地形図で自然災害のリスクを読み取ろう

STEP1で選択しなかった二つの地域は、近年宅地化が進んだ地域である。これまでに経験したことのないような大雨が発生した場合、それぞれの地域ではどのような自然災害のリスクがあり、どのような備えをしておくよのだろうか。

地域(A~C)	自然災害のリスク	リスクに対する備え

自然災害の多い日本では、自然災害への対策が長年進められてきた。現在の地形図と開発以前の姿を表現した旧版地形図を比較すると、なぜ今のような土地利用になっているの

か、その理由を知ることができる。4節「気象災害と防災」の学習内容をもとに、新旧地形図を比較し、災害リスクと防災を考えよう。

* 田を示す

STEP 3 新旧地形図で自然災害への対策を読み取ろう

氾濫原は田として利用されてきたが、現在は土地利用に変化がみられる。どのように変化してきたのだろうか。また、このような変化を可能にしたのはどのような洪水対策だろうか。図1と図2を比較して答えよう。

変化と洪水対策

STEP 4 自然災害に強い大きな病院の立地を構想しよう

図1のエリアのなかに、自然災害に強い大きな病院を建設するとしたら、どこに立地させるのがよいらうか。図1に赤色の●を記入しよう。また、その場所を選んだ理由をまとめよう。

選んだ理由

STEP 5 意見交換をしてあなたの考えをまとめよう

STEP4で構想した場所について意見交換をしよう。意見交換後、あなたの考えは変わっただろうか。考えが変わった理由、変わらなかった理由をまとめよう。

POINT 4
STEP4では、自然災害のリスクを踏まえて病院の立地を考察する問いを入れています。STEP1~4と段階的に学ぶことで、唯一の正解のない問いに対しても、無理なく取り組みます。

POINT 5
最後のSTEPに、協働的な作業を取り入れ、防災意識を高め合えるようにしています。

- 近年甚大化する**災害の最新情勢**を踏まえて、取り上げる事例や記述内容を刷新しました。
- 都市部と過疎地域の**災害対策の違い**や、災害発生後の**復旧・復興のフェーズ**に焦点をあてたページを新設し、**地域の特性を踏まえた災害対策**がより深く理解できるようにしました。
- 「**災害レジリエンス**」や「**復興ツーリズム**」など**新しい知見を反映**し、生徒が持続可能な地域づくりを進めていくための**新たな視点**を獲得できるようにしました。

NEW

▼ p.211

POINT 1

近い将来発生すると予測されている南海トラフ地震をコラムで取り上げています。「南海トラフ地震臨時情報」についても、紹介しています。

POINT 2

能登半島地震など、新しい事例を取り上げています。

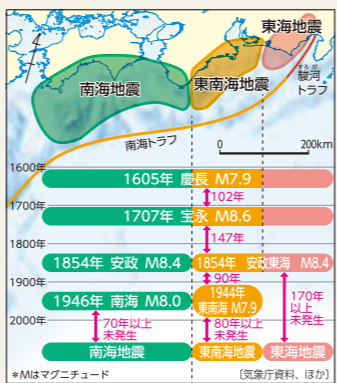
POINT 3

人口が集中する都市部と、高齢化が進む過疎地域の災害対策の違いをわかりやすく記述しています。

コラム 南海トラフ地震への備え

静岡県から宮崎県にかけての太平洋沿岸は、近い将来発生すると予測されている南海トラフ地震によって、広い範囲が大きな被害に見舞われると想定されている。南海トラフ沿いでは、1854年に南海トラフの東側で大規模地震が起こり、その約32時間後に、西側でも続けて大規模地震が発生した。そこで現在、想定震源域内で大規模地震が発生したり、地殻変動など異常な現象が観測されたりした場合に、さらなる地震発生の可能性の高まりについて知らせる「南海トラフ地震臨時情報」が発表されるようになった。この情報にしたがって津波避難が困難な地域に暮らす人々が事前避難すれば、大きな被害の軽減が見込まれる。他方で、情報通りに地震が発生しなかった場合に情報の信頼性が低下することや、避難を急ぎ過ぎてパニックが起きたり、食料やトイレ用紙などの生活必需品が買い占められたりするという社会的混乱が生じることも心配されている。

▶ 南海トラフ沿いで発生した過去の巨大地震の震源域 | 読み解き 南海トラフ沿いで発生した巨大地震は、どのくらいの周期で起こっているのだろうか。



▶ 地震による停電で暗くなった繁華街（北海道札幌市、2018年）発電所が次々と停止し、北海道の全域で停電となった。



▶ 能登半島地震により孤立した集落（石川県珠洲市、2024年1月）地すべりなどにより道路が寸断され、救助・復旧活動が難航した。

地域で異なる自然災害対策 被災する可能性の高い自治体では、防災マニュアルが作成され、物資の備蓄や防災訓練などが進められている。また、災害などの緊急事態が発生した際に、円滑に業務を継続させるための事業継続計画（BCP）を作成する企業が増えている。

地域の自然環境や社会環境に合わせた対策も重要である。例えば、人口が集中し産業活動が盛んな都市部では、木造家屋密集地域での火災対策、多くの人が避難できる避難所の設置、帰宅困難者対策などが必要と^{p.177}なってくる。また、多くの都市機能が電気に依存しているため、大規模停電（ブラックアウト）対策も、重要性を増している（写真3）。他方、高齢化が進む過疎地域では、災害により交通網が寸断され集落が孤立したり（写真6）、地域の防災・減災力を支えてきた消防団の団員数の減少や高齢化が進んだりしている。そのため、自力での避難が難しい高齢者などに対する支援体制の整備や、地域の行政だけでは対応しきれない場合に備えて、他地域から支援を受け入れるための体制づくりをしている。

● **事業継続計画（BCP）** 災害などの緊急事態が発生したときに、企業や官公庁が損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画のこと。優先して継続・復旧すべき事業を特定し、生産拠点・取引先の分散や、代替設備の確保、データのバックアップなどが行われている。

● **帰宅困難者** 交通機関の機能の停止によって、勤務先や学校から帰宅できなくなった人のこと。多くの人が駅などに集中して群集事故が起きたり、道路が渋滞して救急車などの活動の妨げになったりする。

- ☑ **確認** 防災のハード対策とソフト対策の具体例を確認しよう。
- ☑ **説明** 都市部と過疎地域では、防災・減災対策がどのように異なるのか説明しよう。

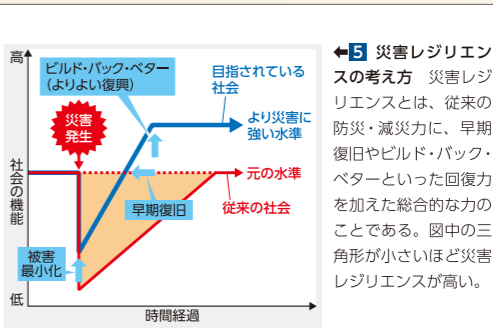
地図帳活用 防災・減災のために利用できる主題図には、どのようなものがあるのか調べよう。

● 新しい知見や最新情勢を反映した例

ページ	テーマ	ページ	テーマ	ページ	テーマ
p.29	国際海峡	p.89	パレスチナ問題	p.182	ウクライナ侵攻
p.39	デジタル田園都市国家構想	p.114	ファブレス企業	p.184-185	ハザード、脆弱性、曝露
p.39	テレワーク、ワーケーション	p.118	人工知能(AI)、生成AI	p.189、206	線状降水帯
p.40-41	インバウンド、オーバーツーリズム	p.125	中国の電気自動車、再生可能エネルギー	p.211	南海トラフ地震臨時情報、能登半島地震
p.42	新型コロナウイルス感染症	p.154	小規模分散型発電	p.213	災害レジリエンス、復興ツーリズム



▶ 熊本地震による被災後の電力復旧作業（熊本県益城町、2016年4月）



1章5節 自然災害への備えと復旧・復興

● **災害レジリエンスの考え方** 災害レジリエンスとは、従来の防災・減災力に、早期復旧やビルド・バック・ベターといった回復力を加えた総合的な力のことである。図中の三角形が小さいほど災害レジリエンスが高い。



▶ 東日本大震災の津波で被災した田老地区の復興の様子（岩手県宮古市）被災時の防潮堤より約5m高い防潮堤の整備や、住宅地の高台移転、道路のかさ上げなどが進められている。| 読み解き なぜこのような取り組みが進められているのだろうか。

復旧・復興の取り組み 災害が発生して被災した際には、復旧・復興のための取り組みが進められることになる。復旧・復興においては、建物やライフラインといったハード面の復旧だけでなく（写真4）、経済・産業活動の回復、さらに、心身に大きな打撃を受けた被災地の人々の生活や心のケアなど、ソフト面の回復も大切である。また近年は、大規模災害の被害を完全に防ぐことが難しいことから、被害を最小化する防災・減災力に加えて、被災後の回復力にも目じた**災害レジリエンス**の考え方が取り入れられている（図5）。例えば、迅速な復旧・復興を進めるために、被災後のまちづくりを被災前に検討する事前復興計画を立てておく自治体が増えている。事前復興計画を立てておくことで、地域の特性を踏まえた復興まちづくりを円滑に進めることができ、復興で被災前の状態に戻すだけでなく、より災害に強い状態をつくるビルド・バック・ベター（よりよい復興）が実現できる（写真6）。

体験・記憶の継承 復旧・復興と並行して進められるのが、被災した体験・記憶、災害対応の記録を保存し、将来に向けて継承する試みである。被災した構造物を災害遺構として保存したり、自治体の災害対応、避難所・仮設住宅での支援活動に関する文章や映像などの記録を残したりするなどの活動がある。さらに、これらを観光資源としても活用して、被災地の復興の加速や地域活性化にもつなげる**復興ツーリズム**が近年注目されている（写真7）。



▶ 東日本大震災・原子力災害伝承館を見学する人々（福島県双葉町、2020年）2011年に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の事実や教訓、復興の歩みを後世に伝えるさまざまな資料を展示している。

- ☑ **確認** 自助・共助・公助の語句の意味を確認しよう。
- ☑ **説明** 復旧・復興の際には、どのような取り組みを行うことが大切だろうか。

節の振り返り 自然災害に備えてあなたができることや、あなたの暮らし自治体ができることをまとめよう。

「防災」単元

3部 1章 4節 気象災害と防災

1. さまざまな気象災害

POINT 1
イラストから、気象災害が起きやすい場所の特徴を、地形と結びつけて考察できます。



▲ p.204図3

POINT 2
p.204図3には、p.202図2と同じ構図で描かれた「気象災害への対策」のイラストがあり、比較して見ることで理解を深めることができます。

POINT 3
イメージがしにくい高潮については、そのメカニズムを動画で解説しています。

▼ p.202-203

4節 気象災害と防災 見通し・振り返りシート

節の主題 日本では毎年のように気象災害が発生している。これらの気象災害にはどのような種類があり、どのような被害をもたらすのだろうか。また、気象災害に備えて、どのような取り組みが必要なのだろうか。

11 大雨による崖崩れ (愛媛県宇和島市、2018年7月) 崖崩れにより、多くの民家が押しつぶされた。

12 さまざまな気象災害 Q どのような場所でのどのような気象災害が起きやすいのだろうか。

1 さまざまな気象災害 学習課題 気象災害は、場所によってどのような違いがあるのだろうか。

高潮の動画コンテンツ

- 崖崩れ 雨や地震などによって不安定になった斜面の一部が急速に崩れる現象のこと。
- 地すべり 雨水の地下への浸透や大きな地震などによって、斜面の土砂が大きな塊となって動きやすくなり、ゆっくりと下方に移動する現象のこと。
- 土石流 土砂が大雨などで崩れ、水と一体となって高速に斜面を流れ下る現象のこと。
- 外水氾濫と内水氾濫 外水氾濫は、河川の氾濫により、市街地や農地などに河川の水(外水)が流れ込む現象のこと。内水氾濫は、堤防内の排水処理能力を超える多量の雨水によりあふれた水(内水)が、市街地の建物や道路などを浸水させる現象のこと。

地域で異なる気象災害 大雨によって河川が氾濫したり、崖崩れ(写真1)が起こったりすると、私たちの生活に被害が及ぶことがある。このような、大雨や強風、大雪などの気象現象により発生する災害を気象災害という(図2)。また気象災害には、やませや日照不足という継続的な天候の異常による災害も含まれる。

日本列島では、山地が急峻で河川の勾配も急であるという地形条件、夏の時期には梅雨前線の停滞や台風による大雨が多いという気象条件、河川や海岸に沿って多くの人が住んでいるという社会条件が重なって、水害が起こりやすい。その被害は地域によっても大きく異なる。河川上流の山間部や台地の周縁部では、崖崩れや地すべり、土石流などの土砂災害が多く、下流の平野部では、河川の氾濫といった外水氾濫による洪水の被害が多い(写真4)。台風が襲来すると、大雨による災害だけでなく、強風による建物の損傷や停電、農作物への被害も生じる。また、

202 中学校との関連 崖崩れ 気象災害 台風 地すべり 土石流 洪水 高潮 都市型水害 局地的大雨(ゲリラ豪雨)

● 「防災」単元では、地震・津波災害や火山災害、気象災害を主に扱っています。それぞれ、災害が発生するメカニズムや発生しやすい場所、防災に向けた各地の取り組み、防災に関する地図の読み取りまで総合的に取り上げています。この見開きでは、気象災害が発生しやすい場所について学習します。

先人の知恵 水門にみられる水害対策の歴史

東京都の江東区周辺では、明治以降に工業用として地下水が大量にくみ上げられ、広い範囲で地盤沈下が発生した。この地盤沈下によって、東京23区の約20%の地域が満潮時には海面より低くなり、水害を受ける危険性が高まった。そこで東京都は、地下水のくみ上げを規制するとともに、さまざまな対策を実施した。この地域を流れる小名木川などでは、水位を東京湾の干潮面よりさらに1m低くし、周辺の地盤よりも低い位置に水面がくるようにした。現在でも、隅田川や荒川から水位差のある小名木川に出入りする際には、二つの水門(閘門)に挟まれた水路(閘室)に船を入れ、水位を人工的に最大3m昇降させることによって船を通過させる。

13 小名木川にみられる閘門式の水門(東京都江東区、2017年)

14 外水氾濫によって浸水した市街地(岡山県倉敷市、2018年7月) 真備地区では、大雨により堤防8か所が決壊し、河川が氾濫した(→p.207)。

15 内水氾濫によって冠水した道路(神奈川県川崎市、2019年10月) 下水管などの排水機能が追いつかず、水があふれ出した。

高潮によって、沿岸部では浸水などの被害が生じることもある(写真6)。そして、竜巻によっても、強風による建物の損傷などの被害が生じる。北海道から本州にかけての日本海側は豪雪地帯であり、冬には積雪による建物の損傷などが起こることもある。降雪の少ない太平洋側でも、ひとたび雪が降ると、路面凍結による交通事故や物流の停滞、交通機関の乱れなどが生じる。

都市化による水害の変化 日本人は古くから、平野の自然堤防などの微高地に居住していたが、都市化が進むにつれて低地や流路跡にも宅地が広がった。そのため、河川が氾濫すると以前にも増して大きな被害が生じやすくなった。また都市では、地表面の大部分がアスファルトやコンクリートで覆われているため、降った雨がほとんど地下に浸透せず、排水処理能力を超えて水があふれる内水氾濫が起こる場合がある(写真5)。このような都市部に特有の水害は都市型水害とよばれる。近年は局地的大雨(ゲリラ豪雨)とよばれる狭い範囲での短時間の大雨も増加しており、都市での水害の危険性がより高まっている。

16 高潮で浸水した関西国際空港(大阪府堺市、2018年9月)

確認 気象災害にはどのような種類があるのか確認しよう。

説明 都市化によって水害が発生しやすくなった理由を説明しよう。

地図帳活用 日本の自然災害の主題図で、気象災害が発生した主な地域の分布を調べよう。

203

POINT 4
外水氾濫と内水氾濫とを比較する写真を掲載することで、実際の状況をイメージしながら学ぶことができます。

POINT 5
都市において水害の危険性が高まっている背景を、本文で丁寧に記述しています。

導入 10 min

導入の「Q」の問い「どのような場所でのどのような気象災害が起きやすいのだろうか。」について考えさせる。p.50-51などの地形のページや図2をもとにして、自身の考えをまとめさせ、グループで意見交換をさせる。学習課題を確認し、気象災害の種類と発生しやすい場所の特徴について学ぶことを予告する。

展開1 20 min

気象災害の種類(土砂災害、洪水、高潮など)を生徒に挙げさせて、黒板にまとめる。次に、それぞれの気象災害が発生しやすい場所についても同様に生徒に問いかけて、板書する。その後、生徒の回答にはなかった気象災害を教員が解説する。その際、高潮については、QRコードの動画を生徒に見せる。

展開2 15 min

地図帳を使って、気象災害が発生しやすい地域の特徴とその事例を生徒に確認させる。次にウェブサイトのハザードマップを使って、学校や生徒の自宅の周辺といった身近な地域で発生する危険性が高い気象災害を確認させる。その際、ウェブサイトでの地形分類図と2画面表示で比較させるなど、地形と気象災害との関わりを考察しやすいように誘導する。

まとめ 5 min

「確認」の問いに取り組ませる。解答を確認し、「説明」の問いに取り組ませ、見通し・振り返りシートに記入させる。教員は、気象災害の種類や学校の周辺で発生しやすい気象災害についてまとめる。最後に次回は、気象災害とその対策について学習することを予告する。

- 地図やGISの基本的な使い方から、GISを利用した地域分析までを、**段階的に学べる**ようにしています。
- 特設「SKILL」では、**地形図や写真の読み取りなどを扱っており、実践的な地理的技能が身につきます。**
- 「地図とGIS」単元だけでなく、**防災や地域調査など教科書全体を通して、地図やGISの知識・技能を養える**ように工夫しています。

POINT 1

地理院地図の特色や機能、基本的な使い方などを段階的に解説しています。実際に操作しながら解説している動画も用意しています。

▼ p.22-23

▶ p.24-25

SKILL 6 地理院地図の利用

TRY
QRコードから視聴できる動画を参考に1～5の作業をしよう。
1 地理院地図のウェブサイトを開き、画面左上の「地図」をクリックして、どのような種類のベースマップがあるか調べよう。
2 図1を参考に、検索バーに自分の通う学校名を入力して、その場所の地図を表示させよう。

● 地図の種類
画面左上の「地図」をクリックすると、「地図の種類」が開き、見たい項目をクリックすると詳細が表示される。また、ベースマップにほかの地理情報を重ねることができる。

● 検索バー
入力ボックスに地名や住所、緯度・経度などを入力すると、その位置が地図上に表示される。地名や住所の場合は、検索結果から選択する。

● 位置情報
図の中心地点の住所や緯度・経度に加えて、標高まで確認できる。[位置]のボタンで、情報の表示・非表示を切り替えることができる。

● いろいろな機能ボタン
[印刷]、[設定]、[ツール]などのボタンがある。「ツール」では、図形や文字の追加、距離や面積の計測のほか、断面図や3D地図の作成などができる。

TRY
QRコードから視聴できる動画を参考に1～5の作業をしよう。
1 表示させた場所の緯度・経度、標高を読み取る。
2 [ツール] ボタンから「計測」をクリックして、学校から自宅までの距離を計測しよう。
3 [ツール] ボタンにある「断面図」をクリックして、学校から自宅までの断面図をつくらう。また、グループをつくり、完成した断面図を比べよう。

アクティブ
持続可能な社会に向けて

テーマパークをどこにつくる?
「アクセス WebGIS」を使って立地を考えよう

2 節「地図の役割と種類」の学習内容をもとに、ここでは、QRコンテンツ「アクセス WebGIS」を使ってみよう 3」を使って、実際に GIS に触れながら、テーマパークの建設に最適な立地について考えよう。

STEP 1 さまざまな地図から地域の特徴を読み取る
テーマパークの立地を考えるために、地域の特徴を整理しよう。この地域の人口や地価、地形、交通網にはどのような特徴がみられるのだろうか。図1～3から特徴を読み取る。

STEP 2 立地を検討するための指標を整理しよう
テーマパークの建設に最適な立地を考えるためには、どのようなことを考慮する必要があるのだろうか。図4～5や、下の欄にあるキーワードを参考にして、必要となる指標を下の図に記入し、その指標と関連することを線で結んで考えを広げよう。思考ツール(ウェビング)の使い方は、QRコンテンツで確認しよう。

STEP 3 立地を決めよう
STEP2 で作成した図をもとにテーマパークの立地を検討し、テーマパークを建設する場所を右の図に記入しよう。立地を検討するために、図1～5 以外の情報が必要な場合には、p.24 の QR コードから「アクセス WebGIS」を使って調べよう。また、立地を決めたら、その理由をまとめよう。

STEP 4 意見交換をしてあなたの考えをまとめよう
STEP3 で決めた立地について、意見交換をしよう。意見交換後、あなたの考えは変わっただろうか。考えが変わった理由、変わらなかった理由をまとめよう。

キーワード 人口 地価 地形 交通アクセス 建設費用 雇用 など

理由

POINT 2
高校生が興味をもちやすい題材にしています。

POINT 3
簡単な操作でGISを利用した学習ができるQRコンテンツ「アクセスWebGIS」と連動しています。

POINT 4
「アクセスWebGIS」では、人口や地価、交通網など最大20種類のレイヤーを重ね合わせて、テーマパークの建設に最適な立地を考察することができます。

TRY
QRコードから視聴できる動画を参考に1～6の作業をしよう。
1 地理院地図では、ベースマップのほかにどのような地図や情報を表示させることができるのだろうか。図2も参考にしながら確認しよう。

● 選択中の地図
「地図の種類」の項目から、見たい地図をクリックすると、「選択中の地図」が表示される。それぞれの地図について、解説や凡例を確認したり、表示・非表示を切り替えたりすることができる。また、それぞれの透過率を設定して、透かせることで、ほかの地図と重ねて表示することもできる。

● 2画面表示
[ツール]にある[並べて比較]をクリックすると、2つの地図を並べて表示させることができる。図の中心地点や縮尺は、自動的に左右で同じになる。

TRY
QRコードから視聴できる動画を参考に1～7の作業をしよう。
1 7の作業で興味をもった地図や情報とベースマップの関係を(1)と(2)の方法で読み取る。
(1)「選択中の地図」で、透過率を調整する。
(2)「ツール」をクリックして、2画面表示にする。

● 特設「SKILL」のテーマ一覧(全20テーマ)

ページ	テーマ	ページ	テーマ
p.9	時差の計算	p.65	写真の読み取り方-気候-
p.14	地形図の利用-地図記号-	p.74-75	写真の読み取り方-生活文化-
p.15	地形図の利用-縮尺と等高線-	p.134	地図によるまとめ方
p.18	等値線図の作り方	p.195	ハザードマップの見方
p.19	階級区分図の作り方	p.201	火山地形の読み取り方
p.22-23	地理院地図の利用	p.207	水害と地形の関わり方の読み取り方
p.26	身近なWebGISの利用	p.216	マイ・タイムラインの作成
p.56	地形図の利用-小地形と土地利用-	p.222-223	GISを利用した地域課題の発見
p.57	空中写真の利用	p.225	年代が異なる地形図の読み取り方
p.64	雨温図・ハイサーグラフの見方	p.227	ポスターセッションの方法

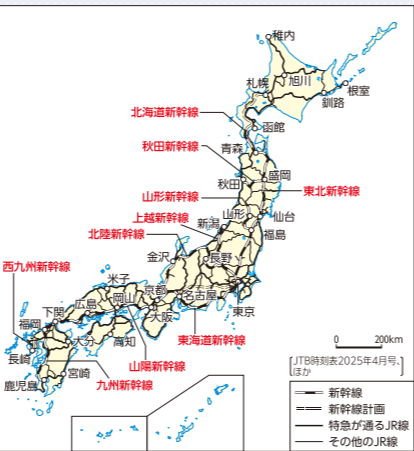
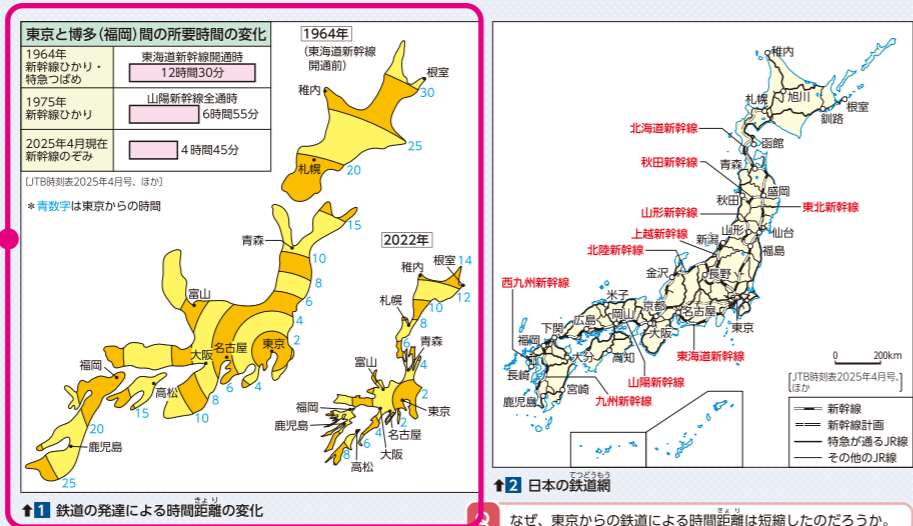
「地図とGIS」単元

1部 2章 2節 グローバル化する世界
3. さまざまな交通網の発達

● 地図とGISの役割と種類を学んだ後に、地域的な枠組み、貿易、交通網、通信網、観光の視点で現代世界の結びつきを地図からとらえられるようにしています。この見開きでは、交通網の発達を陸上交通、海上交通、航空交通に分類して学習します。

POINT 1
図1では、時間距離の変化を地図で可視化しており、生徒が交通網の発達を具体的にイメージできます。

▼ p.36-37



なぜ、東京からの鉄道による時間距離は短縮したのだろうか。

3 さまざまな交通網の発達

学習課題 私たちの生活を支える交通網は、どのように発達してきたのだろうか。

国際河川の動画コンテンツ

● 時間距離 ある2点間の距離を、人や物が移動するのに要する時間によって表す指標のこと。交通機関の発達によって短縮される。

● 車社会化(モータリゼーション) 自動車が一層の人々に普及することによって、自動車に依存した生活と社会が進展すること。



↑3 広大な駐車場に囲まれた郊外の野球場(アメリカ合衆国、ロサンゼルス、2023年)

縮小する日本と世界 20世紀に進展した交通機関の高速化は、人間が移動できる範囲を大きく広げ、社会や経済の姿を変えてきた。日本の新幹線や高速道路網の発達は、東京を中心に主要都市間の時間距離を縮小させ、産業の発達を支えてきた(図1・2)。また、地形や海洋の影響を受けることなく地球上の各地を最短距離で結ぶ航空交通の発達は、国際的な長距離移動の時間距離を大幅に短縮した。

陸上交通の発達と都市の拡大 鉄道や自動車などの陸上交通は、比較的近い距離を頻りに結ぶ役割を果たしており、航空交通に比べて輸送量ははるかに多い。産業革命以降、各国では高密度の鉄道網が整備され、経済発展の基盤となった。日本では、現在も鉄道が旅客輸送において重要な手段となっている(図3)。20世紀半ばからは、鉄道に代わって自動車が陸上交通の主役となる車社会化(モータリゼーション)が進展した。出発地と目的地とを直接結ぶことができる自動車の普及によって、それまで鉄道路線沿いに形成されていた都市は面的に広がった。特に道路網が発達するアメリカ合衆国では、自家用車の普及によって商業施設などの郊外化が進んだ(写真3)。

36 中学校との関連 車社会化(モータリゼーション) 国際河川

POINT 2
陸上交通、海上交通、航空交通に分けて、本文を分かりやすく整理しています。



↑5 ライン川に隣接するコンテナ港と工場地帯(ドイツ、デュッセルドルフ)

旅客輸送(億人・km)	貨物輸送(億・km)	海上輸送
日本: 鉄道 28.7%, 自動車 65.6%	日本: 鉄道 3.9%, 自動車 63.9%, 船舶 32.0%	輸出: 機械類 30.9%, 自動車 22.1, 8.9, その他 31.7
アメリカ合衆国: 航空 55.5%	アメリカ合衆国(2003年): パイプライン 14.7, 77232, 58793, 38.4%, 31.4, 15.1	輸入: 医薬品 14.1%, 電気機器 9.2, その他 65.5
フランス: 鉄道 0.1%, 1.1%	フランス: 航空 0.4%, 0.4%	航空輸送: 輸送品 17.4%, その他 71.5
ドイツ: 航空 0.6%	ドイツ: 航空 0.1, 3.9%	輸入: 半導体など 15.2%, 医薬品 14.4, 6.4, 5.1, その他 55.5
10546	4136	23.2%, 59.3, 13.5

↑6 主要国の国内輸送の内訳

↑7 日本の海上輸送と航空輸送による輸出入品

貿易を支える海上交通 船舶は、速度が速いものの、安く大量に運ぶことに適しているため、貨物輸送では現在も重要な交通機関となっている(図6)。一般的な商品やコンテナ船のほか、原油などの液体を運ぶタンカー、鉱産資源や穀物を運ぶ積荷貨物船など、海上交通は世界的な貿易の拡大を支えている。また、ライン川やドナウ川など、国際河川やそれらを結ぶ運河が発達しているヨーロッパでは、内陸部でも船舶による輸送が活発である(図4、写真5)。

世界を結ぶ航空交通 航空機は短時間で旅客や貨物を輸送できる反面、費用も高くなる。そのため、貨物として輸送されるのは半導体などの電子部品や精密機械といった、比較的軽くて単価の高い工業製品や(図7)、鮮度が重視される食品や花弁などが中心となっている。このため、空港周辺には工業団地や流通センターが多く集積するなど、産業の立地にも影響を与えている。近年では、航空交通網の中心であるハブ空港の重要性が高まっている(写真8)。ハブ空港では、旅客と貨物が集中することで大きな経済効果が生まれるため、各国間の主導権争いも激しくなっている。また、サービスを簡素化することで運賃を安くした格安航空会社(LCC)により、旅客数は増加している。

● 国際河川 複数の国の領域や国境を流れ、船が自由に航行できるように沿岸国間で条約が結ばれた河川のこと。



↑8 世界各地を結ぶ航空機が離陸するヒースロー空港(イギリス、ロンドン) ハブ空港とは、地域内の航空交通の拠点となる空港のことです。ヒースロー空港もその一つです。

- 確認 海上交通と航空交通で輸送される貨物の違いを確認しよう。
- 説明 車社会化の進展によって、人々の生活に起きた変化を説明しよう。

地図帳活用 世界の航空路の主題図で、航空路線が発達している国や地域を調べよう。

POINT 3
図4、写真5では、ヨーロッパの内陸水運が発達している様子を学ぶことができます。ヨーロッパでは河川や運河沿いに工業地帯がみられるなど、日本との違いを考察できます。

POINT 4
図6、図7のように、グラフと「読み解き」の問いが充実しており、地理学習に必要な思考力が養えます。

導入

10 min

導入の「Q」の問い「なぜ、東京からの鉄道による時間距離は短縮したのだろうか。」について考えさせる。その際、図1の2つの地図や、図2を比較しながら、時間距離が短縮された地域の特徴も併せて考察させる。自身の考えをまとめさせ、グループで意見交換をさせる。学習課題を確認し、交通網の発達について学ぶことを予告する。

展開1

15 min

「交通網の発達によって、生活や産業にどのような変化が生じたのだろうか。」と問いかけ、生徒の意見を黒板にまとめる。鉄道や自動車などの陸上交通の発達とその影響を解説する。その際、車社会化により、商業施設が郊外化した例など、写真3を用いて説明する。

展開2

15 min

図6や図7をもとに日本の交通網の特徴について、生徒に考察させる。その後、教員は自動車、鉄道、船舶、航空機のそれぞれの特徴を、速さや費用などの面から整理しながら、日本の交通網の特徴を解説する。

展開3

5 min

国際河川や運河を利用した内陸水運がヨーロッパで発達していることや、ハブ空港が貿易や観光の拠点として、重要な役割を果たしていることを解説する。

まとめ

5 min

「確認」の問いに取り組ませる。解答を確認し、「説明」の問いに取り組ませ、見直し・振り返りシートに記入させる。教員は、交通網の発達が産業や生活に与えた影響についてまとめる。最後に次回は、通信網について学習することを予告する。

全体構成

見開き構成

特色①

特色②

特色③

特色④

QR
コンテンツ

関連教材

教科書内容の理解を助ける 充実のQRコンテンツ

教科書の各所に配置しているQRコードを読み取ることで、学習内容の理解を深めるさまざまなコンテンツをご利用いただけます。

※QRコードを読み取り、表示されたウェブサイトへアクセスした際には、通信料がかかる場合があります



https://tks46.jp/08hs/geo1

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です

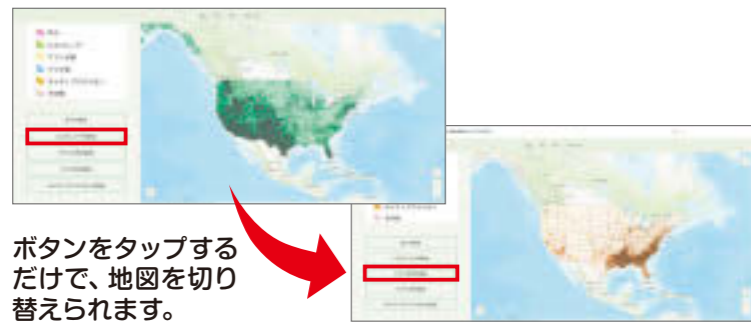
▼QRコンテンツ トップページ

スマートフォンからも閲覧可能

アクセスWebGIS

全12点

WebGISコンテンツを12テーマ収録し(2テーマ新設)、さまざまな単元でGISを活用した授業ができます。各テーマに対応したワークシートも収録しています。



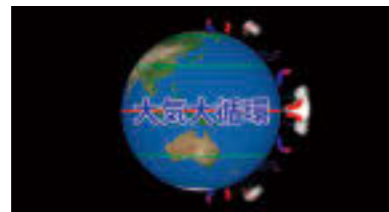
	テーマ
1	GISを使ってみよう1 (デジタルの地図と地球儀)
2	GISを使ってみよう2 (地理情報システムの活用)
3	GISを使ってみよう3 (さまざまな統計データ)
4	植民地支配の影響が残るアフリカの産業
5	世界の食卓に影響を与える農業 (アメリカ合衆国)
6	産業の発展を支えてきた移民の力 (アメリカ合衆国)
7	EU統合による工業や社会への影響 (ヨーロッパ)
8	地球的課題を考える NEW
9	自然災害と自然環境の関係 NEW
10	火山地形の読み取り方
11	河川地形とさまざまな気象災害1 (扇状地)
12	河川地形とさまざまな気象災害2 (河岸段丘と氾濫原)

▲アクセスWebGISのテーマ一覧 (全12テーマ)

動画

全20点

地形や気候、自然災害発生のおくみ、地理院地図の使い方などを解説した動画を収録しています。



一問一答

全400問

重要用語とその意味を確認できます。ブックマーク機能で間違えた問題だけピックアップし、繰り返し取り組むことができます。



用語解説

全637語

教科書に掲載している重要用語などの定義や意味を確認できます。検索機能もあり、調べたい用語をすぐに確認できます。



統計資料

全161項目

世界や日本の統計を掲載しています。円グラフや統計地図で表現することができます。



世界74項目

日本87項目

地域分析Web

全85テーマ

日本のさまざまな統計を3次元グラフで可視化できるWebGISを収録しています。



NHK ONE for School

全104点

NHK ONE for Schoolの動画のなかから学習に関連のあるものを厳選し、リンクを掲載しています。

思考ツール・白地図

思考ツール全11種

白地図全93点

思考ツールの解説動画とワークシート、世界と日本の白地図を収録しています。

見通し・振り返りシート 特設ワークシート

見通し・振り返りシート31点

特設ワークシート7点

授業で活用できる見通し・振り返りシートや、特設ページに対応したワークシートです。

外部リンク

全19点

地理院地図やRESASなど主体的な学習に最適な外部リンクを掲載しています。

ご指導を支援する教科書関連教材が充実しています

※内容は一部変更になる可能性があります

指導資料Webサポートコンテンツ付

<p>①指導用教科書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書紙面の縮刷版を中心に置き、その周りに本文や図版の解説や発問例などを掲載しています。
<p>②指導書 Web サポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●授業をサポートするコンテンツを多数収録しています。 ●帝国書院のウェブ会員ページよりお使いいただけます。 <ul style="list-style-type: none"> ■教科書紙面ビューア ■授業スライド(.pptx/Googleスライド) ■授業プリント(.docx) ■見通し・振り返りシート(生徒用・教師用) (.docx/Googleスプレッドシート) ■特設ワークシート(.docx) ■教科書本文(.txt) ■教科書掲載図版(カラー・モノクロ) (.jpg) ■レイヤー分けした主題図(.html) ■映像資料 ※図版アニメーションを含む ■年間指導計画案・評価規準例(.xlsx) ■学習課題・確認・説明・TRYの解答例(.txt) ■評価問題例(テスト例) (.docx) ■一問一答のデータ(.xlsx) ■用語解説のデータ(.xlsx) ■「アクセスWebGIS」ワークシート(.pdf) ■白地図集(.jpg) ■教科書QRコンテンツへのリンク ■GIS主題図クリエイター(体験版)へのリンク(クーポンを登録してから半年間利用可能)
<p>③指導用教科書・指導書 Web サポートの使い方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導用教科書の使い方と、指導書Webサポートのコンテンツを紹介しています。

定価：28,600円(本体26,000円+税)

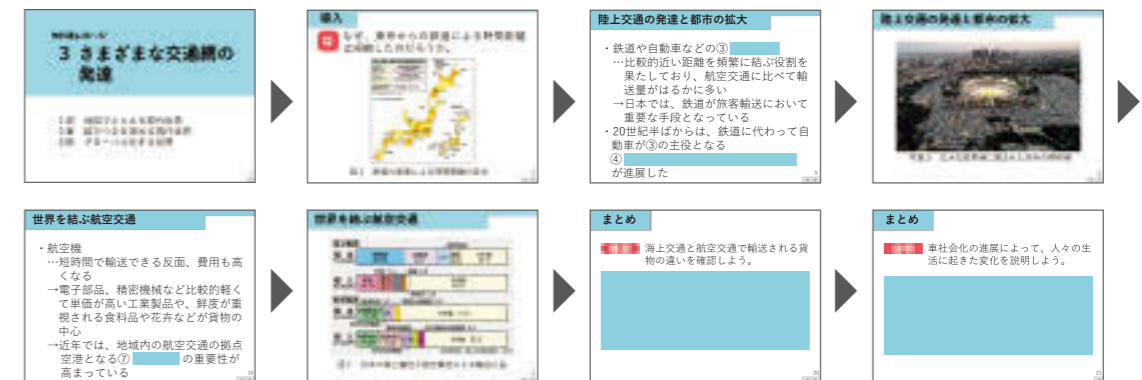
指導用教科書

▶教科書紙面の縮刷版を中心に置き、その周りに本文や図版の解説や板書例(要点整理)、「Q」「学習課題」「確認」「説明」の解答例などを掲載しています。



授業スライド

▶教科書本文ページ1見開きにつき、10~20枚のスライドを収録しています。加工してお使いいただけます。
▶PowerPointとGoogleスライドの2形式を収録しています。



授業プリント

▶授業スライドに対応したプリントを収録しています。加工してお使いいただけます。



教科書紙面ビューア

▶教科書紙面を先生方の端末でご覧いただけるビューアです。※ダウンロードはできません



副教材



高等学校 新地理総合ノート

教科書に完全準拠したノートです。基本的な穴埋め、作業問題のほかに大学入試を見据えた発展問題も掲載しています。



地理統計Plus -Web GIS付き-

ワンポイント解説のある統計資料です。世界・日本の全地域の統計データを地図化できる「統計見えマップ」を搭載しています。



新詳地理資料 COMPLETE

地理の基礎・基本から大学入試対策まで網羅した資料集です。



図説地理資料 世界の諸地域NOW

地理総合に最適でビジュアルな地誌資料集です。



特色一覧

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な写真や図表と因果関係がわかる本文を通して、地理的な見方・考え方を働かせた学習ができるようになっている。 ・最新の具体事例を数多く扱うことで興味・関心を高め、理解を深める工夫がなされている。 ・世界各地の生活文化の特色や現代世界が抱える諸課題を学ぶことで異文化理解につながる教科書になっている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・1部1章「地図と地理情報システム」では、地図やGISの活用といった基礎的・基本的な地理的技能を段階的に習得できるよう、特設「SKILL」が数多く設けられている。 ・1部2章「結びつきを深める現代世界」では、他地域との結びつきや地域的な枠組みについて、知識と教養を幅広く身につけられるよう、多様な地図からの読み取りをもとに学習できるようになっている。 ・2部1章「生活文化の多様性と国際理解」では、世界各地の生活文化が生まれた背景やその変容を深く学べるよう、世界の主要な10の国と地域で「選択事例」が設けられている。また、学習効果の高い写真・図版が数多く扱われており、生徒の興味・関心を高める工夫がなされている。 ・2部2章「地球的課題と国際協力」では、持続可能な社会の形成に参画する態度を養うことができるよう、発展途上国・先進国・日本など立場や環境の異なる複数の具体事例が掲載されている。 ・3部1章「自然環境と防災」では、災害発生時に生徒自身がとるべき行動を主体的に考えることができるよう、災害発生のメカニズムから具体事例による対策まで総合的に取り上げられている。 ・3部2章「生活圏の調査と地域の展望」では、みずから発見した疑問や課題を多面的・多角的な視野から考察する態度を養うことができるよう、調査テーマの設定方法や現地調査の手順、発表方法が具体的なレポートとともに提示されている。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に合わせて、重要事項を適切かつ丁寧に解説されている。 ・原則、1見開き1時限を想定した構成であり、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。 ・単元を貫く問い「節の主題」と、単元を振り返る「節の振り返り」が設置されており、見通し・振り返りができるようになっている。 ・見開きごとに学習を見通す「学習課題」、学習を振り返る「確認」「説明」が設置されており、効果的に学習できる流れになっている。 ・特設「アクティブ」が7テーマ設けられており、地理的な課題に向き合い、解決に向けて探究する力を養えるようになっている。
表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活がいまいると伝わる写真や、地図・グラフなどの資料が豊富に設けられており、視覚的に理解できるようになっている。 ・地理的事象の背景や因果関係までわかる、丁寧に分かりやすい本文になっている。 ・中学校で学ぶ漢字の読みへのふりがなや重要語句へのゴシック（太字）が効果的につけられている。 ・本文内容を補足する用語解説が数多く設置されており、理解を助ける工夫がなされている。 ・導入資料の問い「Q」や、写真や図表を読み解く問い「読み解き」が設置されており、地理的な見方・考え方を働かせられるようになっている。 ・関連する資料の図番号や、参照ページが本文やその行間に付されており、学びやすい工夫がなされている。 ・グラフなどの統計資料は、新しいデータが使用されている。 ・「地図帳活用」が56か所見開きの右下に設置されており、地理的な見方・考え方を働かせた深い学びにつながるようになっている。 ・「中学校との関連」が各見開きの左下に設置されており、中学校の学習内容を踏まえて学習できるようになっている。
ユニバーサルデザインへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・本文や側注、キャプションなどの文字には、見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォント（UDフォント）が使用され、誤読を防ぐ配慮がなされている。 ・カラーユニバーサルデザインを採用し、色覚特性のある学習者にも読み取りやすい表現になっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・紙は環境に配慮し、かつ鮮明に発色し、裏写りがしない用紙が使用されている。 ・インキには、再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキが使用されている。 ・使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりになっている。 ・指導資料や準拠ノートをはじめ、充実した関連教材が用意されている。

著作関係者 ※所属・肩書きは令和8(2026)年3月時点のもの

著作者

新井 祥穂 (東京農工大学教授)
 新井 教之 (京都教育大学附属高等学校教諭)
 市川 康夫 (埼玉大学准教授)
 大呂 興平 (大阪大学教授)
 小野寺 淳 (横浜市立大学教授)
 木村 圭司 (奈良大学教授)
 佐々木 緑 (広島修道大学教授)
 須貝 俊彦 (東京大学教授)
 高木 優 (神戸大学附属中等教育学校指導教諭)
 戸井田 克己 (近畿大学教授)
 中村 光貴 (筑波大学附属高等学校教諭)

根元 一幸 (神奈川大学特任准教授)
 武者 忠彦 (立教大学教授)
 森田 浩司 (大阪教育大学附属高等学校池田校舎主幹教諭)
 矢野 桂司 (立命館大学教授)
 山内 昌和 (早稲田大学教授)
 矢守 克也 (京都大学教授)
 株式会社帝国書院

編集協力者

揚村 洋一郎 (東海大学付属大阪仰星高等学校 中等部・高等学校前校長)
 伊藤 直哉 (広島大学附属中・高等学校教諭)

尾原 達哉 (広島城北中・高等学校教諭)
 木場 篤 (ノートルダム清心中・高等学校教諭)
 中井 彩乃 (神奈川大学附属中・高等学校教諭)
 能勢 博之 (神奈川県立秦野総合高等学校教諭)
 番匠谷 省吾 (広島大学附属中・高等学校教諭)
 真島 徹也 (神奈川県立総合教育センター指導主事)
 持田 柊斗 (神奈川県立高等学校元教諭)

特別支援教育に関する監修・校閲者

丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校教諭)